

令和6年（2024年）

神戸市感染症発生動向調査事業

事業報告

神戸市保健所

神戸市健康科学研究所

令和6年(2024年)神戸市感染症発生動向調査事業 事業報告

目次

目次		
神戸市感染症発生動向調査事業(感染症サーベイランス)の概要	.....	1
令和6年(2024年)患者発生および病原体検出状況	.....	7
表1 全数把握対象感染症発生状況(令和2年~令和6年)	.....	16
表2-1 三類感染症・細菌性赤痢発生状況(令和6年)	.....	17
表2-2 三類感染症・腸チフス発生状況(令和6年)	.....	17
表2-3 三類感染症・腸管出血性大腸菌感染症発生状況(令和6年)	.....	17
表3 腸管出血性大腸菌感染症発生状況(平成8~令和6年)	.....	18
表3-1 月別発生状況	.....	18
表3-2 年齢別発生状況	.....	19
表3-3 区別発生状況(患者居住地)	.....	20
表3-4 血清型別・患者・保菌者別発生状況	.....	21
表4 四類・五類(全数把握)感染症発生状況(疾患別発生状況)	.....	22
表5 四類(全数把握)感染症発生状況	.....	23
表6-1 五類(全数把握)感染症発生状況(麻しん・風しん以外)	.....	24
表6-2 五類(全数把握)感染症発生状況(麻しん・風しん)	.....	29
表7 獣医師が届出を行う感染症	.....	29
表8 神戸市感染症発生動向調査年報 令和6年(第1週~第52週集計)	.....	30
表9 インフルエンザ・小児科・眼科定点患者報告数(令和2年~令和6年)	.....	31
表10 基幹定点(週報)患者報告数(令和2年~令和6年)	.....	31
表11 基幹定点(月報)患者報告数(令和2年~令和6年)	.....	31
表12-1 性感染症(STD)定点患者報告数(令和2年~令和6年)	.....	31
表12-2 性感染症(STD)定点患者報告数(令和6年の集計詳細)	.....	32
令和6年(2024年)病原体検出状況報告(病院検査室定点)		
表13 病院検査室定点活動状況(平成6~令和6年)	.....	33
表14 便(細菌)	.....	34
表15 便(ウイルス)	.....	34
表16 便(原虫)	.....	35
表17 穿刺液(胸水、腹水、関節液など)	.....	35
表18 髄液	.....	35
表19 咽頭および鼻咽頭からの材料	.....	35
表20 尿	.....	35
表21 血液	.....	36
表22 喀痰、気管吸引液および下気道からの材料	.....	36
表23 尿道または子宮頸管擦過(分泌)物	.....	36
表24 検出された黄色ブドウ球菌の内訳	.....	36
表25 腸管出血性大腸菌の検出	.....	37
令和6年(2024年)病原体検出状況報告(健康科学研究所実施分)		
表26 2024年 STD(定点)	.....	38
表27 食中毒以外の細菌検査	.....	38
表28 ウイルス検出状況	.....	38
表29 疾患別ウイルス検出件数	.....	39
令和6年(2024年)神戸市感染症の話題		
2月<報告> 病原体検出状況(病院検査室定点)2023年(令和5年)	.....	40
5月<報告> 2023(令和5)年病原体検出状況(神戸市実施分)	.....	47
9月<話題> 結核	.....	52
感染症発生動向調査の対象となる感染症一覧(令和6年4月1日現在)	.....	55
報告週対応表(令和6年)	.....	56

# 神戸市感染症発生動向調査事業 (感染症サーベイランス)の概要

感染症発生動向調査とは、日本における感染症のサーベイランスシステム(調査・監視)の一つである。感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を医療機関や市民へ迅速に情報提供・公開することにより、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を行い、感染症の発生およびまん延を防止することを目的としている。

神戸市の感染症サーベイランスは、昭和46年に50カ所の定点医療機関からスタートした。その後、昭和56年(1981年)7月から全国で18疾病を対象に調査事業が始まり、昭和62年に国とオンライン化になるなど幾度かの制度の見直しが行われている。

平成11年4月には「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)の施行に伴い、感染症対策の一つとして、法令に位置付けられた。

実施主体は、国・都道府県及び保健所を設置する市(特別区を含む)であり、情報を収集する感染症は感染症法により対象疾患および類型が定められている。

医師は感染症法第12条に基づき、該当する患者等を診断した時は、最寄りの保健所に届け出なければならない。令和5年5月8日現在、届出の対象となる感染症は116疾病となっている。

また、感染症法第14条に基づき、開設者の同意を得て、五類感染症のうち厚生労働省令で定めるもの又は二～四類感染症、若しくは五類感染症の疑似症のうち厚生労働省令で定めるものの患者の発生状況の届出や、五類感染症の患者の検体等の提出を担当する病院又は診療所(指定届出機関)を兵庫県が指定している。

平成26年、法律第115号にて感染症法の一部が改正された。これにより、検体採取の項目が設けられ、平成28年4月より感染症に関する情報の収集体制の強化が施行された。

(感染症発生動向調査の主な歴史)

年月日	事項
昭和46年	神戸市感染症サーベイランス開始(定点50か所)
昭和56年7月	全国で18疾病を対象に感染症発生動向調査事業が開始
昭和62年1月	コンピューターを用いたオンラインシステムが導入開始 27疾病に対象が拡充
平成11年4月	「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」 (以下「感染症法」という。)施行 一～四類感染症、新感染症、指定感染症が定められ、感染症発生動向調査も 感染症対策の一つとして位置付けられた。 また、全国的に統一された基準による定点の設置を行い、他地域の発生状況との 比較が容易になった。
平成12年11月	インフルエンザウイルスワクチン株に対する抗体価調査について オンラインでの報告が可能となった。
平成15年11月	媒介動物の輸入規制、消毒、蚊・ネズミなどの駆除等の措置がとれる感染症を 新四類感染症とした。旧四類感染症から新四類感染症に移行したものを除き、 新五類感染症として分類された。 さらに、重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウイルスによるもの)など12の感染症 が追加され、ポツリヌス症など3つの感染症の名称または定義が変更された。また、 動物由来感染症対策や感染症の発生状況、動向及び原因の調査等について 充実・強化が図られた。
平成18年4月	法に基づく医師の届出基準等が一部変更されるとともに、 厚生労働省のシステムが更新され、新たな運用(NESID)が開始された。
平成19年4月	病原体等の管理体制の確立、感染症分類の見直し、結核予防法との統合が 行われ、その結果、南米出血熱が一類感染症に加わり、重症急性呼吸器症候群 (SARSコロナウイルスによるもの)が一類から二類に、コレラ、細菌性赤痢、 腸チフス、パラチフスが二類から三類に変更となった。さらに結核は二類感染症に 組み入れられ、四類感染症には新たに11感染症が加わった。
平成20年1月	平成19年の全国的な麻しん流行を受けて、それまで小児科定点把握疾病であった 麻しん及び風しんと、基幹定点把握疾病であった成人麻しんが、全数把握疾病 として五類感染症に組み入れられた。
平成25年5月	中国で発生した鳥インフルエンザH7N9が指定感染症に指定され、二類感染症相当 の扱いとなった。
平成26年9月	五類感染症(全数把握疾病)にカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、 水痘(入院例に限る。)及び播種性クリプトコックス症が追加された。 また、五類感染症の薬剤耐性アシネトバクター感染症が、定点報告から 全数報告に変更となり、すべての医療機関において届出が必要となった。
平成26年11月	感染症法の一部を改正する法律が公布された(平成26年11月21日法律第115号)。 感染症法に病原体の検査に関する明確な規定が設けられ、平成28年4月から 感染症に対する情報収集体制が強化されることとなった。
平成27年1月	平成26年11月の法改正により、中東呼吸器症候群(MERS)及び鳥インフルエンザ (H7N9)が指定感染症から二類感染症に変更された。
平成27年5月	平成26年11月の法改正により、五類感染症の侵襲性髄膜炎球菌感染症及び 麻しんについて、患者の氏名、住所等を直ちに保健所に届け出るように 届出方法及び様式の改正が行われた。

年月日	事項
平成27年9月	平成26年11月の法改正により、感染症に関する情報収集体制の強化として、指定提出機関制度及び検査の実施体制が定められた。感染症の発生状況、動向及び原因の調査について、標準作業書に基づいた検査の実施が定められた。検体の採取、収去について、その際の通知・報告事項が定められた。
平成27年11月	平成26年11月の法改正により、病原体情報収集体制の強化として感染症発生動向調査実施要綱が一部改正された。
平成28年2月	平成26年11月の法改正により、四類感染症にジカウイルス感染症が追加された。
平成28年4月	平成26年11月、感染症法の一部改正および感染症発生動向調査実施要綱の改正が施行され、感染症に関する情報収集体制の強化としてインフルエンザ等、指定提出機関制度が施行された。
平成30年1月	平成30年1月の法改正により、百日咳が五類感染症(定点)から五類感染症(全数)に変更され、五類感染症として風しんについて、患者の氏名、住所等を直ちに保健所に届け出るように届出方法及び様式の改正が行われた。
平成30年5月	平成30年5月の法改正により、五類感染症(全数把握疾病)に急性弛緩性麻痺が追加された。
平成31年4月	平成31年4月の法改正により、疑似症定点に指定する医療機関の基準が改正され、届出基準および届出様式が変更された。
令和2年2月	中国で発生した新型コロナウイルス感染症が指定感染症に指定され、二類感染症相当の扱いとなった。
令和2年4月	眼科定点の対象疾病である「流行性角結膜炎」の届出基準が一部改正となった。
令和2年7月	発生届の提出先を変更した。(神戸市)
令和3年2月	新型コロナウイルス感染症が、指定感染症から新型インフルエンザ等感染症に、法的位置付けが変更された。
令和3年6月	全数把握疾病のうち、3疾病(マラリア、アメーバ赤痢、百日咳)の届出基準及び届出様式の一部が改正された。
令和3年9月	五類感染症である「急性弛緩性麻痺」の届出基準の一部が改正された。
令和3年12月	新型インフルエンザ等感染症である「新型コロナウイルス感染症」の届出様式の一部が改正された。
令和4年3月	新型インフルエンザ等感染症である「新型コロナウイルス感染症」の届出様式の一部が改正された。
令和4年6月	新型インフルエンザ等感染症である「新型コロナウイルス感染症」の届出様式の一部が改正された。
令和4年8月	全数把握疾病のうち、サル痘の届出基準及び届出様式の一部が改正された。
令和4年9月26日	新型インフルエンザ等感染症である「新型コロナウイルス感染症」については、感染症法に基づく医師の届出の対象を限定した運用がなされることとなった。
令和5年5月8日	「新型コロナウイルス感染症」について、感染症法上での取扱いが「新型インフルエンザ等感染症」から定点報告対象の「5類感染症」に変更された。
令和5年5月26日	「サル痘」が「エムポックス」に、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」が「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」に、感染症法上の名称が変更された。
令和5年9月25日	「新型コロナウイルス感染症の入院患者」について、基幹定点からの届出(週単位)が開始された。

## 1. 目的

感染症法第12条から第16条に基づき①感染症に関する医師などからの情報収集②専門家による解析(必要に応じ、感染症発生状況・動向及び原因を明らかにするための積極的疫学調査)③市民・医療関係者への情報提供及び公開を行うことにより、感染症に対する有効かつ的確な予防対策を図り、多様な感染症の発生・拡大を防止することを目的とするため、一類から五類感染症すべてについて、一元的な情報収集・分析・提供・公開体制を構築する。

## 2. 対象疾病 P. 55 参照

## 3. 指定届出及び指定提出機関設置状況(令和6年4月1日現在)

	定 点 種 別	定 点 数	対 象 感 染 症
患 者 定 点	インフルエンザ /COVID-19定点	48	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)、新型コロナウイルス感染症
	小児科定点 (インフルエンザ /COVID-19定点を 兼ねる)	31	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎
	眼科定点	10	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
	性感染症定点	12	性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症
	基幹定点	3	週報告:細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)、インフルエンザ入院例 月報告:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症
	疑似症定点	7	原因不明の重症の感染症
病 原 体 定 点	インフルエンザ /COVID-19定点	14	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)、新型コロナウイルス感染症
	小児科定点 (インフルエンザ /COVID-19定点を 兼ねる)	12	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎
	眼科定点	3	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
	性感染症定点※	5	性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症
	基幹定点	3	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)
	病院検査室定点 ※	13	病原体検出状況に関する情報

※ 神戸市独自の設置

## 4. 業務概要

### (1) インフルエンザ/COVID-19・小児科・眼科・基幹定点(週報)

月曜日から日曜日までを単位とする週報とし、その週に診断した新規患者数について、翌週の月曜日中に保健所へ届出を行う。

### (2) 性感染症・基幹定点(月報)

毎月1日から月末までを単位とする月報とし、その月に診断した新規患者数について、翌月の初日中に保健所へ届出を行う。

### (3) 病原体定点

報告した患者等から、随時、検査材料を採取する。(保健所が検査材料を回収し、健康科学研究所で検査を行う。保健所を通じて結果を定点機関へ報告する。)

五類感染症の疾患で、患者数の把握だけでは、その流行状況を把握できない疾患(例えば、症状は同じでも複数の異なる病原体が原因となっている疾患(インフルエンザ、ヘルパンギーナなど)や、ワクチン接種を行っているにもかかわらず流行をおこし病原体の変異が疑われる疾患(麻しん、流行性耳下腺炎など)については、病原体サーベイランスとして、健康科学研究所で病原体の検査を実施する。

### (4) 疑似症定点

重症急性呼吸器症候群(SARS)や、生物テロを含む新興・再興感染症の発生を想定して、感染症法第14条に基づき平成19年4月1日から厚生労働省により運用が開始され、本市では平成20年度から開始した。平成31年4月1日から原因不明の重症の感染症の発生動向を早期に把握することを目的として、発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般的に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断した場合は保健所へ届出を行う。

### (5) 病院検査室定点

神戸市独自の設置である毎月1日から月末までを単位とする月報とし、検査材料種別ごと(血液、便、髄液など)の検査件数と検出した病原体について翌月の10日までに調査票を健康科学研究所に送付する。

## (6) 保健所

定点医療機関から報告された情報や、健康科学研究所での検査結果を集計し、国に報告する。また、これらの情報を感染症情報週報及び月報として、医療機関、福祉施設等の関係機関、ホームページ等を通して広く市民に還元しているほか、必要時には記者資料提供等を実施し、予防上の必要な事項の周知・啓発、不安の除去に努めている。

## (7) 健康科学研究所

病原体定点等（インフルエンザ/COVID-19・小児科・眼科・性感染症・基幹病院）から提出された検査材料の検査を行い、病原体検出結果を保健所へ送付するとともに、国へも報告する。患者および病原体検出状況の疫学解析を行い、病原体の流行状況について保健所を通して広く医療機関や市民に情報提供する。また、感染症の話題を作成し、注目すべき感染症についての情報提供を行う。

## 令和 6(2024 年)患者発生および病原体検出状況

### 1. 全数把握対象疾病(表1～7)

#### (1) 一類感染症

届出なし。

#### (2) 二類感染症

結核の新登録患者数は 151 人で罹患率(人口 10 万対)は 10.1、全国の 8.1 より高い。70 歳以上が 101 人、66.9%を占め、主に有症状や他の疾患で医療機関を受診して発見されている。一方、20 代では外国生まれの日本語教育機関生が増加し、所属での健診で発見される結核患者が再び増加している。

潜在性結核感染症(LTBI)の新登録者数は 94 人で、リウマチ等の疾病の治療のため、生物学的製剤などを使用する際に、LTBI 治療が必要となる例の割合が接触者よりも増加している。

#### (3) 三類感染症

国外での感染が推定される 細菌性赤痢 1 例及び腸チフス 2 例の届出があった。

腸管出血性大腸菌感染症 51 例の届出があった。5 例が HUS(溶血性尿毒症症候群)を発症し、14 例が職場の定期検便あるいはイベント調理前の検便で、6 例が家族等接触者検便で探知された。

#### (4) 四類感染症

レジオネラ症が 23 例と最も多く、すべて肺炎型であった。次いで、日本紅斑熱が 10 例で、8 例が県内、2 例が県外での感染が推定された。レプトスピラ症が 2020 年以来 4 年ぶりに 2 例あり、1 例は明らかに県外、1 例は県外または県内での感染が推定された。E 型肝炎 1 例、デング熱 1 例、ブルセラ症 1 例(市内初/感染推定地域は国外)の届出があった。

#### (5) 五類感染症

麻疹 3 例(海外から入国した同胞 3 例)の届出があったが、感染の広がりは無かった。

梅毒が 137 例と最も多く、男性 87 例うち 44 例が性風俗産業利用歴有、女性 50 例うち 16 例が性風俗産業従事歴有であった。次いで、多い順に、百日咳 50 例、侵襲性肺炎球菌感染症 35 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 26 例、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 20 例、急性脳炎 17 例、後天性免疫不全症候群 10 例、侵襲性インフルエンザ菌感染症 10 例、水痘(入院例に限る。)10 例、アメー

バ赤痢 8 例、播種性クリプトコックス症 5 例、ウイルス性肝炎 4 例、ジアルジア症 2 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例、破傷風 1 例の届出があった。

## 2. 定点把握対象疾患(表8～12)

### (1) インフルエンザ/COVID-19 定点(48 カ所)

インフルエンザは、2024 年第 6 週(2/5～11)の定点当たり報告数 24.98 をピークに減少し、第 17 週(4/22～28)に定点当たり報告数 0.5 となり 1 を下回った。その後も報告数が 0 になることはなく 2024/25 シーズンに入り、第 40 週(9/30～10/6)には定点当たり報告数 1.04 と流行期入りの目安を超え、第 48 週(11/25～12/1)以降急増し、第 52 週(12/23～29)には定点当たり報告数 68.98 と警報レベルの目安 30 を大きく超え、国のサーベイランス開始以降最多の報告数となった。

新型コロナウイルス感染症は、第 4 週(1/22～28)の定点当たり報告数 9.02 をピークに減少していたが、第 20 週(5/13～19)定点当たり報告数 1.23 を底に増加に転じ、第 30 週(7/22～28)には定点当たり報告数 12.10 となった。その後は再び減少に転じ、第 45 週(11/4～10)には定点当たり 0.42 まで減少したが、以降は増加に転じ、第 52 週(12/23～29)の定点当たり報告数は 2.54 となった。

### (2) 小児科定点(31 カ所)

RS ウイルス感染症の報告は、第 15 週(4/8～14)の定点当たり 2.35 が最多で、総報告数は昨年とほぼ同数であった。咽頭結膜熱は、第 10 週(3/4～10)の定点当たり 1.13 が最多で、総報告数は昨年の半数以下であった。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、第 6 週(2/5～11)の定点当たり報告数が 5.48 となり、総報告数とともに過去 10 年間で最多であった。感染性胃腸炎の総報告数は、過去 5 年間で最多であった昨年の 1.14 倍であった。水痘の総報告数は昨年の 1.5 倍であったが 2020 年とほぼ同数であった。手足口病は、第 28 週(7/8～14)の定点当たり報告数 21.55 をピークとする警報基準の目安(定点当たり報告数 5)を大きく超える流行となり、総報告数を含め、過去 10 年間で最多であった。伝染性紅斑の総報告数は昨年の 6.1 倍であったが 2020 年の 0.66 倍であった。突発性発しんの総報告数は、昨年の 1.1 倍であったが、過去 5 年間平均の 0.92 倍であった。ヘルパンギーナは、第 26 週(6/24～30)の定点当たり 1.55 をピークとする小さな流行があったが、総報告数は昨年の 0.28 倍であった。流行性耳下腺炎の総報告数は、昨年の 0.9 倍であった。

### (3)眼科定点(10カ所)

急性出血性結膜炎の報告数は13例で、昨年の1.9倍であった。流行性角結膜炎の報告数は242例で、昨年の1.1倍であった。

### (4)性感染症定点(12カ所)

性器クラミジア感染症の報告数は、613例で昨年の0.9倍、性器ヘルペスウイルス感染症175例は昨年の1.05倍、と尖圭コンジローマ135例は昨年の1.12倍、淋菌感染症207例は昨年の0.85倍であった。

### (5)基幹定点(3カ所)

週報対象疾病は、マイコプラズマ肺炎の総報告数が162例と過去10年間で最多であった。

月報対象疾病は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の総報告数が128例で昨年の1.13倍であった。

### (6)疑似症定点(7カ所)

疑似症定点1か所から1例の届出があり、健康科学研究所にてウイルス検査を実施した。

## 3. 病院検査室定点

神戸市では感染症発生動向調査事業実施要綱に定められている病原体定点(健康科学研究所で検査を実施)に加え、より多くの情報を収集・分析するため、独自に「病院検査室定点」を設置している。

2024年は13病院を設置し、毎月検査室で検査した検体について、検体種別ごとの検査件数と検出した病原体に関する情報を報告いただいた(表13)。

#### (1)糞便(図1、表14~16、表25)

4,150件中391件から細菌性の病原体が検出され(検出率9.4%)、その内訳はカンピロバクター属菌54.5%(昨年は54.3%)、サルモネラ属菌21.1%(昨年は14.1%)、黄色ブドウ球菌15.1%(昨年は20.9%)、腸管出血性大腸菌4.3%(昨年は5.1%)となっている。カンピロバクター属菌のうち、85.0%はカンピロバクター・ジェジュニであった。サルモネラ属菌の血清型はO4群が最も多く、続いてO7群、O8群、O9群であった。腸管出血性大腸菌は17件で、2020年11件、2021年7件、2022年9件、2023年16件となっている。血清型はO157が13件(毒素型:VT1;1件、VT2;1件、VT1/VT2;11件)、O111が2件(毒素型:VT1/VT2;2件)、O26が1件(毒素型:VT1;1件)、不明1件(O抗原遺伝子型OgGp5、毒素型:VT2)であった。2024年の腸管出血性大腸菌の特徴として、毒素型VT1/VT2が17件中13件と大幅に増加した(2023年16件中1件、2022年9件中1件)。

ウイルスは、1,862件中139件から検出され(検出率7.5%)、その内訳はノロウイルス84.2%、アデノウイルス40/41型10.1%、ロタウイルス5.8%であった。検出内訳は、昨年と比較してノロウイルスは増加し、アデノウイルスおよびロタウイルスは減少した。

原虫は、赤痢アメーバが3件検出された。

(2) 穿刺液 (図2、表 17)

4,870 件中 1,283 件から細菌性の病原体が検出され(検出率 26.3%)、その内訳は大腸菌 27.4%、嫌気性菌 23.9%、肺炎桿菌 14.1%、黄色ブドウ球菌 11.3%であり、昨年と比較して大腸菌はやや増加し、嫌気性菌はやや減少した。

(3) 髄液 (表 18)

1,887 件中 15 件から病原体が検出され(検出率 0.8%)、その内訳は黄色ブドウ球菌4件、B 群レンサ球菌4件、肺炎レンサ球菌4件、大腸菌3件であった。

(4) 咽頭及び鼻咽頭 (図3、表 19)

7,442 件中 335 件から細菌性の病原体が検出され(検出率 4.5%)、昨年とほぼ同程度であった。その内訳は、インフルエンザ菌 46.6%、肺炎レンサ球菌 32.2%、A 群レンサ球菌 21.2%であった。2020 年まではインフルエンザ菌の検出割合が一番高かったが、2021 年と 2022 年は肺炎レンサ球菌の検出が過半数を占め、2023 年以降は再びインフルエンザ菌の割合が一番高くなった。

(5) 尿 (図4、表 20)

35,503 件中 18,784 件から病原体が検出され(検出率 52.9%)、その内訳は大腸菌 37.9%、エンテロコッカス属菌 20.2%、コアグララーゼ陰性ブドウ球菌 13.7%であり、昨年とほぼ同様の割合であった。

(6) 血液 (図5、表 21)

82,748 件中 5,500 件から病原体が検出され(検出率 6.6%)、その内訳は大腸菌 33.3%、コアグララーゼ陰性ブドウ球菌 23.2%、黄色ブドウ球菌 15.3%、肺炎桿菌 11.6%であった。人獣共通感染症であり、食品媒介感染症として知られているリステリア・モノサイトゲネスは、10 件検出された。

(7) 喀痰、気管吸引液および下気道からの材料 (図6、表 22)

32,199 件中 8,873 件から細菌性の病原体が検出された(検出率 27.6%)。その内訳は黄色ブドウ球菌 37.0%、緑膿菌 18.0%、肺炎桿菌 15.9%であった。レジオネラ・ニューモフィラが5件検出されており、このうち6月に検出された基礎疾患を持つ患者1名が亡くなっている。

(8) 尿道または子宮頸管擦過(分泌物) (図7、表 23)

7,182 件中 1,151 件から病原体が検出され(検出率 16.0%)、その内訳は B 群レンサ球菌 52.7%、カンジダ・アルビカンス 42.1%であった。ここ数年にわたって、この2菌種の割合が高くなっている。

(9) 検出された黄色ブドウ球菌の内訳 (表 24)

検出された黄色ブドウ球菌 5,125 件中、MRSA は 2,372 件検出された(検出率 46.3%)。2010 年に初めて MRSA の割合が 70%を下回り、その後は低下傾向にあったが、ここ数年変化はない。検体別での MRSA の占める割合は、大便 76.3%、喀痰 51.4%、尿 35.9%、血液 36.4%、穿刺 30.3%であった。また、検出された MRSA の検体内訳は喀痰 1,689 件(71.2%)、血液 306 件(12.9%)、尿 289 件(12.2%)であ

り、喀痰からの検出が7割を占めた。

#### 4. 病原体定点を含む神戸市の病原体検出状況(健康科学研究所)

健康科学研究所で行った定点医療機関からの検体を中心とした病原体検出状況について報告する。

##### 細菌検出状況

###### (1)食中毒細菌

2024 年は市内の食中毒疑い事例関連の 112 検体の検便検査を実施し、97 株の下痢症原因菌が検出された。そのうち黄色ブドウ球菌が 34 株と最も多く検出された(35%)。2024 年は市内で 14 例の食中毒事例が発生し、昨年より 4 事例から大幅に増加した。そのうち 9 事例が細菌性の食中毒事例であり、病原因物質はカンピロバクターが 8 事例、サルモネラ属菌が 1 事例であった。これらの事例に付随する検査でカンピロバクター・ジェジュニを患者便から 25 株、サルモネラ属菌 O4 群を 7 株、サルモネラ属菌 O3,10 群を 1 株検出した。上記のサルモネラ属菌については同一事例の患者からの複数の血清型(Saintpaul、Stanley、Anatum)が検出された。また、食中毒事例に関連した施設ふき取り検査を 161 件実施し、セレウス菌を 22 株検出した。

この他の散発事例として腸管出血性大腸菌の接触者および治癒確認検便を計 26 件実施し、それぞれ対象となった腸管出血性大腸菌を 3 株(O111、Og175、O 型不明)検出した。また、チフス菌の治癒確認検便を 6 件実施し、いずれもチフス菌は不検出であった。

###### (2)下痢症原因菌

2024 年は定点サーベイランスで搬入された感染性胃腸炎の検体からは下痢症原因菌は検出されなかった。その他、医療機関で単離されたコレラ菌疑い菌株の同定検査を 1 件実施し、陰性(NAG ビブリオ)と判定した。

###### (3)A 群溶血性レンサ球菌感染症

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎疑いの患者から採取した 27 検体から A 群溶血性レンサ球菌が検出された。T 型別の結果、T1 型(8 検体)、T4 型(4 検体)、T12 型(2 検体)、TB3264 型(2 検体)、T3 型(1 検体)、型別不能(10 検体)であった。T1 型 8 株の内、7 株は M1<sub>UK</sub> 系統株、1 株は M1<sub>UK</sub> sublineage である M1<sub>13snps</sub> 系統株であった。また、T 型別不能であった 3 株は、マクロライド系抗菌薬に耐性を示した。

###### (4)STD(性感染症)(表 26)

男性の尿道分泌物 11 検体について、淋菌の分離培養を実施した結果、11 検体とも培養陰性であった。

###### (5)その他の細菌(表 27)

###### a) レジオネラ症

喀痰 17 検体が搬入され、6 検体から *Legionella pneumophila* 血清群 1(6 株)、*Legionella bozemanii* (1 株)を分離した。また、1 検体は培養陰性であったが、喀痰遺伝子検査は陽性となった。*Legionella pneumophila* の SBT (sequence-based typing)による遺伝子型別解析の結果、ST120、ST384、ST818、

ST1760、ST1823、新規遺伝子型と同定した。遺伝子検査で陽性となった検体は nested SBT 法により、ST609 と同定した。ST120、ST384 は土壌・水たまり分離株が多く含まれるグループ、ST818、新規遺伝子型は冷却塔水分離株が多く含まれるグループに存在した。

#### b) 侵襲性肺炎球菌感染症

小児由来株は、ワクチン接種済みの小児より6株、ワクチン接種歴不明の小児より1株が搬入された。7株の血清型は、PCR法と膨化法により、7C、10A、15A、15B、16、23A、35Bと同定した。検出された血清型はいずれも、結合型13価ワクチン(PCV13)には含まれない血清型であった。

莢膜多糖体23価ワクチン(PPSV23)接種済みの成人2名から分離された株の血清型は22F、24Bと同定した。

ワクチン接種歴なし/ワクチン接種歴不明の成人由来株23株の血清型は、22F(6株)、3(3検体)、10A(3株)、19A(3株)、35B(3株)、6C(1株)、18C(1株)、23A(1株)、35F(1株)、37(1株)と同定した。

#### c) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

侵襲性インフルエンザ菌感染症8件について、PCR法による莢膜型別を実施した。その結果、インフルエンザ菌の莢膜型はすべて non-typable と同定した。

#### d) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(GRE)感染症

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(GRE)感染症として届出された腸内細菌目細菌20株の検査を実施した。検出部位は、尿(6株)、血液(4株)、喀痰(4株)、膿(2株)、創部(2株)、尿カテーテル(1株)、胆汁(1株)であった。また、菌種は *Klebsiella aerogenes* (10株)、*Enterobacter cloacae* complex(4株)、*Serratia marcescens* (2株)、*Escherichia coli*(1株)、*Klebsiella pneumoniae* (1株)、*Morganella morganii* (1株)、*Proteus mirabilis*(1株)であった。

ディスク法によるβラクタマーゼ産生のスクリーニングおよび薬剤耐性遺伝子の保有状況を調べた。その結果、クラスCβラクタマーゼ産生が示唆された菌種は *Klebsiella aerogenes* (9株)、*Enterobacter cloacae* complex(3株)、*Serratia marcescens* (2株)、*Morganella morganii*(1株)であった。*Enterobacter cloacae* complex(1株)よりEBC型βラクタマーゼ、*Morganella morganii* (1株)よりDHA型βラクタマーゼを検出した。

クラスAβラクタマーゼについては、*Escherichia coli*(1株)よりTEM型・SHV型βラクタマーゼ、*Klebsiella aerogenes* (1株)よりCTX-M-1型βラクタマーゼ、*Proteus mirabilis*(1株)よりCTX-M-2型βラクタマーゼを検出した。

カルバペネマーゼについては、*Enterobacter cloacae* complex(1株)よりIMP-1βラクタマーゼ、*Klebsiella pneumoniae* (1株)よりIMP-6βラクタマーゼを検出した。

#### e) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌25株を収集した。内訳はA群溶血性レンサ球菌16株、B群溶血性レンサ球菌2株、G群溶血性レンサ球菌7株であった。国立感染症研究所による菌株解析の結果、16株のA群溶血性レンサ球菌のT型別については、T1型(3株)、T4型(1株)、TB3264型(1株)、T型別不能(11株)であった。T1型の3株はいずれもM1<sub>13snps</sub>系統株であった。T型別不能の4株はエリスロマイシン、アジスロマイシン、クラリスロマイシンに耐性を示し、内1株はクリンダマイシンにも耐性を示した。2株のB群溶血性レンサ球菌の血清型は、Ib型、IV型であった。7株のG群溶血性レンサ球菌の血清型は

stG653.0(2株)、stG6792.3(2株)、stG480.0型(1株)、stG485.0型(1株)、stG840.0型(1株)であった。stG480.0型株とstG840.0型株はエリスロマイシン、アジスロマイシン、クラリスロマイシンに耐性を示し、stG840.0型株はクリンダマイシンにも耐性を示した。

#### f) 百日咳

百日咳として届出された患者の鼻腔ぬぐい検体が4検体搬入され、3検体から百日咳菌を分離した。MLVA(Multilocus variable-number tandem-repeat analysis)法による遺伝子型は、2株がMT27、1株がMT107であった。MT107は国内初検出の遺伝子型であり、23S rRNA遺伝子のA2047G点変異を有するマクロライド耐性百日咳菌であった。

#### g) ダニ媒介性感染症

日本紅斑熱については20症例の検査を行い、10例が陽性であった(昨年は12症例中6例陽性)。また、SFTSについて5症例、ライム病について3症例の検査依頼があったが全て陰性であった。

### ウイルス検出状況 (表 28～29)

2024年の搬入検体数は526件(うち陽性数464件)であった。新型コロナウイルス流行により減少していたが、流行前に近い値まで回復した。

2024年3月からは呼吸器系ウイルスマルチプレックスPCR法による検査を開始した。これまで個別に行っていたウイルスの検査を同時に行えるようになった他、新たにヒトコロナウイルス、ボカウイルスの検出が可能となった。

#### (1)新型コロナウイルス

2024年に市内の医療機関およびウイルスサーベイランスにより陽性となった検体を収集し、ゲノムサーベイランスを実施した。変異株検出用PCRは1,268検体に対して実施され、ウイルス量が十分な検体を選別後、NGS解析を行い、761検体のPango系統を決定した。得られた情報は保健所へ適宜提供し、ホームページ等で公表することで、市内の流行株の状況を常に把握した。

2024年4月頃まではJN.1系統およびXDQ系統による第10波が観察されたが、5月以降はKP.3系統が主流となり、夏季に流行を引き起こした第11波の主要な原因となった。

#### (2)エンテロ/ライノウイルス

2024年は全国的に手足口病の大きな流行が見られ、神戸市でも同様であった。手足口病の検体からは、コクサッキーウイルスA16型(24検体)、A6型(19検体)、ライノウイルス(15検体)が多く検出された。無菌性髄膜炎は11事例16検体からウイルスが検出され、そのうち5事例7検体からエコーウイルス11型(E11)が検出された。E11は従来から無菌性髄膜炎の原因ウイルスとして報告されているが、2022年以降、欧州で急性肝不全等を呈し死亡した新生児からE11が検出されており、日本においても同様の報告が認められた。これを受け、2024年12月に厚生労働省が注意喚起を行い、2025年2月から新生児を対象とした積極的疫学調査が実施されているところである。一方、神戸市では重症例は見られておらず、小児科定点の検体からも1件陽性となっており、その病原性については明らかでない部分が多い。基幹定点のみならず小児科定点からの検体についても検査を実施し、今後もその発生動向を把握しておくことは病態解明のためにも重要と考えられる。

### (3)アデノウイルス

アデノウイルスでは3領域の遺伝子型別を実施している。これらの組み合わせで型を決定するが、未登録の組み合わせの場合は最も抗原性に関わるとされるヘキソン型を報告している。2024年は咽頭結膜熱の検体からアデノウイルス(AdV)2型(3検体)、AdV3型(9検体)、AdV4型(1検体)、AdV54型(1検体)、AdV108型(3検体)、AdV(型不明)(1検体)を検出した。また、急性脳症の1事例2検体からAdV14型を分離・検出した。国内のAdV14型の報告は過去2例のみであったが、2023年以降AdV14p1型という新しい系統が数例検出されており、神戸市もこの型であった。海外では、AdV14p1型が重症急性呼吸器感染症に関連することが報告されており、継続した病原体サーベイランスが必要である。

### (4)ノロウイルス

2024年には下痢症サーベイランス7件を検査し、ノロウイルスGIとGIIの混合感染が1事例、GII.4[P16]が4事例、GII.17[P17]が1事例、GII 亜型不明が1事例検出された。また、市内で発生した食中毒疑い事例に関連して166件の検便検査を実施し、5事例からノロウイルスGIを、14事例からノロウイルスGIIを検出した。このうち食中毒事件として行政処分された事例は4例あり、それぞれの遺伝子型は、GII.4が2例、GII.2が1例、GI.1が1例であった。

### (5)麻しん・風しんウイルス

麻しんおよび風しんの検査を、19事例について実施した(いずれかの疑い事例の検査には両者を検出可能なMultiplex RT-PCR法を実施)。3事例で麻しん陽性(全て遺伝子型D8)、風しんは全て陰性であった。

### (6)インフルエンザウイルス

2023/24シーズンの流行は初期にA/H1pdm亜型、その後A/H3亜型、続いてB/ビクトリア系統が検出され、3種類の混合流行となった。2024/25シーズン当初にはA/H1pdm亜型が流行し、第52週の定点当たり患者報告数が60を超え、国のサーベイランス開始以降最大となった。

2024年の病原体サーベイランスでは、A/H1pdm亜型を90検体、A/H3亜型を17検体、B/ビクトリア系統を64検体から分離・検出した。ウイルス分離可能であったA/H1pdm09亜型については、オセルタミビル感受性の検査を実施し、全て感受性であることを確認した。B/山形系統は検出されなかった。

図1 便 (細菌)

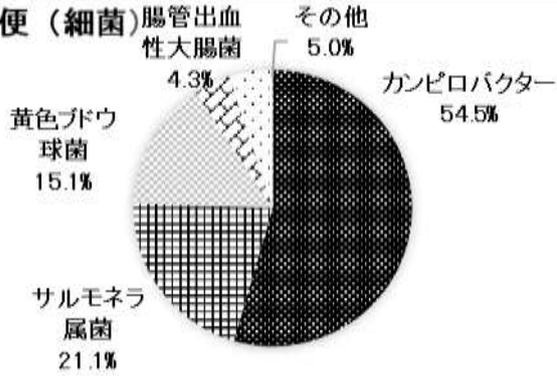


図2 穿刺液

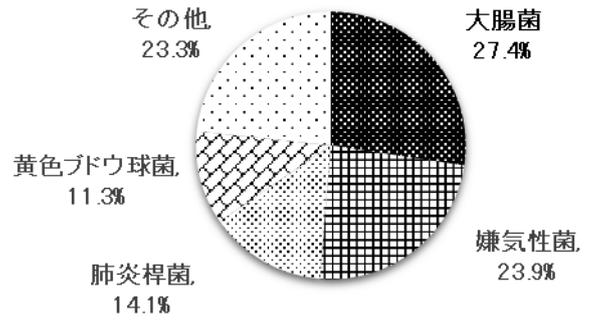


図3 咽頭及び鼻咽頭

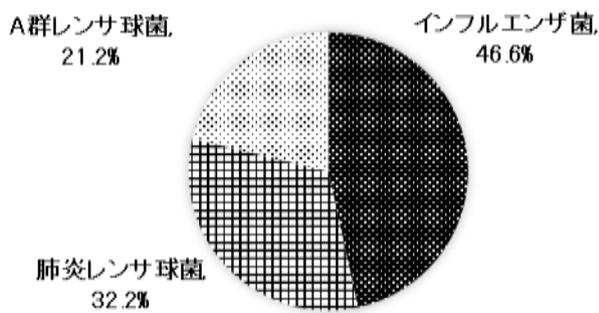


図4 尿

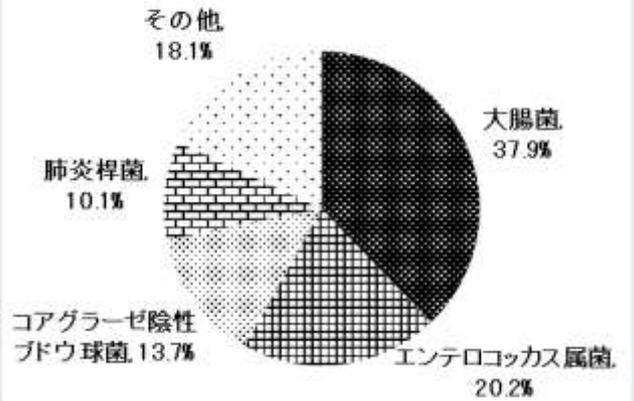


図5 血液

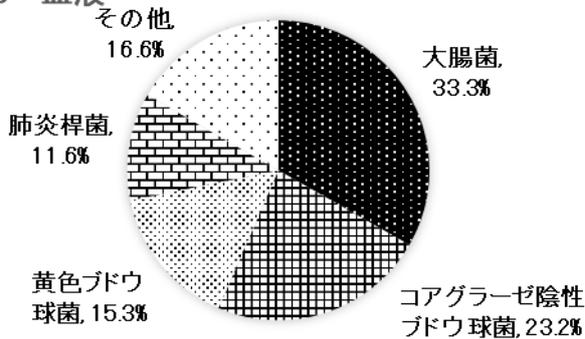


図6 下気道

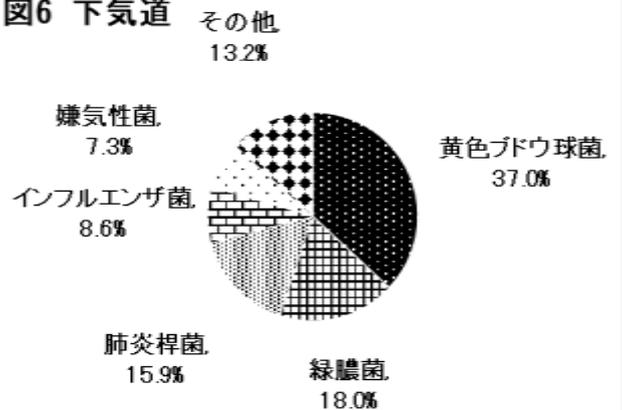


図7 尿道または子宮頸管擦過物

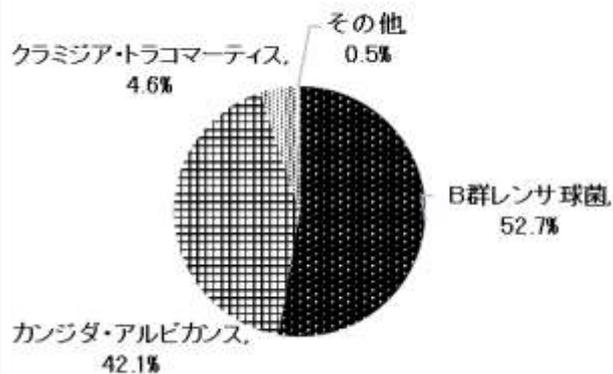


表1 全数把握対象感染症発生状況(神戸市)

令和6年第1週(1/1-7)～第52週(12/23-29)診断分

類型	感染症名	6年												5年	4年	3年	2年		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月					累積数	
二類	結核	結核については、P.7および下記※をご参照下さい。																	
三類感染症	コレラ														0	0	0	0	
	細菌性赤痢							1							1	0	0	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	2		1	1	6	7	10	6	7	4	6	1	51	58	33	25	49	
	腸チフス					1	1							2	1	0	0	0	
	パラチフス													0	0	0	0	0	
	小計	2	0	1	1	7	8	11	6	7	4	6	1	54	59	33	25	49	
四類感染症	E型肝炎												1	1	3	3	1	2	
	A型肝炎													0	1	1	0	0	
	ジカウイルス感染症													0	1	0	0	0	
	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)													0	1	0	0	0	
	つつが虫病													0	0	2	0	1	
	デング熱	1												1	1	2	0	2	
	日本紅斑熱						1		3	2	2	2		10	6	7	9	5	
	ブルセラ症								1					1	0	0	0	0	
	マラリア													0	0	1	1	0	
	レジオネラ症	3	2	1	2	2	2	5		3		1	2	23	26	36	23	29	
	レプトスピラ症									1	1			2	0	0	0	1	
		小計	4	2	1	2	2	3	5	5	6	2	3	3	38	39	52	34	40
五類全数把握感染症	アメーバ赤痢	2	1					1	1	1	1		1	8	9	5	8	10	
	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）					2				2				4	2	1	2	2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2			1	1	5	1	1		1	4	4	20	14	17	15	14	
	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）	5	1	2	1	1	2					1	4	17	17	9	13	8	
	クロイツフェルト・ヤコブ病					1								1	1	1	0	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2		2	5	4	2		4	1	4		2	26	15	3	9	11	
	後天性免疫不全症候群		1		2				1	2		3	1	10	9	14	17	17	
	ジアルジア症				1									1	2	0	2	0	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		1	1	1	2	1				1	2	10	19	5	5	1	
	侵襲性髄膜炎菌感染症													0	1	0	0	0	
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	2	4	4	5	2	1	1	1	1	4	6	35	31	18	13	30	
	水痘（入院例に限る。）	1	1		1		1	1		5				10	3	3	3	11	
	梅毒	6	14	17	9	11	7	18	17	5	16	12	5	137	180	139	109	72	
	播種性クリプトコックス症				1	2			1					1	5	1	2	1	1
	破傷風					1								1	1	0	0	2	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症													0	1	0	0	0	
	百日咳	1	5		1	2	4	2	5	4	9	7	10	50	9	1	2	14	
	風しん													0	0	0	0	3	
	麻疹								3					3	1	1	0	0	
		小計	24	25	26	27	31	25	26	35	19	35	30	36	339	314	221	197	198
新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ													0	0	0	0	0	
	再興型インフルエンザ													0	0	0	0	0	
	新型コロナウイルス感染症													...	52,874	373,781	24,132	3,419	
合計（結核を除く全数把握感染症）		30	27	28	30	40	36	42	46	32	41	39	40	431	53,286	374,087	24,388	3,706	

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日:平成28年4月1日)に伴う分類表示  
 診断年月日での集計結果のため、過去の報告結果とは異なる部分があります。  
 届出のなかった感染症の一部は掲載していません。

※結核の発生状況

	6年	5年	4年	3年	2年
新登録結核患者数	151	170	148	201	213
潜在性結核感染症(LTBI)新登録者数	94	48	60	64	68

獣医師が届出を行う感染症の発生状況

	6年	5年	4年	3年	2年
鳥インフルエンザ(H5N1又はH7N9)	-	2	-	-	-

表2-1 三類感染症・細菌性赤痢発生状況 令和6年

令和6年第1週(1/1-7)～第52週(12/23-29)診断分

番号	患者別	性別	年齢	住所	病名	発病月日	初診月日	診断月日	推定感染地域	備考
1	無症状病原体保有者	女	20代	長田	細菌性赤痢	-	7/22	7/22	ネパール	S.dysenteriae (A群)

表2-2 三類感染症痢・腸チフス発生状況 令和6年

令和6年第1週(1/1-7)～第52週(12/23-29)診断分

番号	患者別	性別	年齢	住所	病名	発病月日	初診月日	診断月日	推定感染地域	備考
1	患者	男	20代	長田	腸チフス	4/23	5/2	5/7	バングラデシュ	分離菌株のファージ型E9
2	患者	男	20代	中央	腸チフス	4/2	6/10	6/15	バングラデシュ	分離菌株のファージ型D2

表2-3 三類感染症・腸管出血性大腸菌感染症発生状況 令和6年

令和6年第1週(1/1-7)～第52週(12/23-29)診断分

番号	患者別	性別	年齢区分	住所	発病月日	初診月日	診断月日	血清型	VT型
1	無症状病原体保有者	男	30代	灘	-	1/22	1/22	O136	VT2
2	無症状病原体保有者	男	40代	東灘	-	1/22	1/22	OUT(Og37)	VT1
3	無症状病原体保有者	女	10代	灘	-	2/28	3/12	O157	VT1
4	無症状病原体保有者	女	50代	東灘	-	4/11	4/16	O111	VT1VT2
5	患者	男	20代	長田	4/26	4/28	5/3	O111	VT1VT2
6	無症状病原体保有者	男	20代	兵庫	-	5/13	5/16	OUT(Og175)	VT1VT2
7	無症状病原体保有者	男	20代	中央	-	5/15	5/16	OUT(Og8)	VT1VT2
8	患者	女	40代	東灘	5/16	5/17	5/22	O157	VT2
9	患者	女	5～9歳	東灘	5/16	5/17	5/22	O157	VT2
10	患者	男	70代	北	5/13	5/16	5/22	O26	VT1
11	患者	男	10代	灘	5/23	5/24	6/4	O157	VT1VT2
12	患者	男	50代	西	6/4	6/6	6/7	O157	VT1VT2
13	患者	女	20代	北	6/2	6/6	6/11	O157	VT1VT2
14	患者	女	0～4歳	灘	6/5	6/10	6/24	O157	不明
15	患者	女	10代	市外	6/20	6/21	6/25	O157	VT2
16	患者	男	0～4歳	垂水	6/22	6/24	6/26	O157	VT2
17	患者	男	0～4歳	灘	6/27	6/25	6/27	O157	VT2
18	患者	男	50代	市外	6/27	6/28	7/3	O157	VT1VT2
19	患者	男	20代	長田	6/28	7/1	7/4	O157	VT1VT2
20	患者	男	5～9歳	須磨	6/29	7/2	7/8	O157	VT1VT2
21	患者	女	20代	西	7/4	7/4	7/10	O26	VT1
22	患者	男	5～9歳	市外	6/28	7/5	7/12	O157	不明
23	無症状病原体保有者	男	60代	西	-	7/12	7/17	O26	VT1
24	患者	男	10代	須磨	6/27	7/17	7/19	O157	VT1VT2
25	無症状病原体保有者	女	50代	北	-	7/19	7/19	O157	VT1VT2
26	患者	女	0～4歳	西	7/17	7/17	7/22	O157	VT2
27	患者	男	10代	須磨	7/17	7/22	7/29	O157	VT1VT2
28	患者	女	70代	長田	7/24	7/26	8/2	O157	VT1
29	無症状病原体保有者	男	20代	西	-	7/26	8/3	O157	VT2
30	患者	女	40代	西	8/16	8/17	8/20	O157	VT1VT2
31	患者	女	10代	東灘	8/17	8/19	8/27	O157	VT1VT2
32	患者	女	30代	北	8/18	8/22	8/27	O157	VT1VT2
33	無症状病原体保有者	女	20代	垂水	-	8/30	8/30	O157	VT2
34	患者	女	10代	北	8/26	8/28	9/2	O157	VT2
35	患者	男	50代	北	8/23	8/25	9/4	O157H7	VT1VT2
36	無症状病原体保有者	女	50代	須磨	-	9/9	9/13	O91	VT1VT2
37	無症状病原体保有者	女	10代	垂水	-	9/18	9/20	O26	VT1
38	患者	女	20代	北	9/13	9/24	9/24	O157	VT2
39	無症状病原体保有者	女	20代	兵庫	-	9/24	9/24	O157	VT2
40	無症状病原体保有者	男	20代	北	-	9/27	9/27	O157	VT2
41	患者	女	10代	市外	9/18	9/26	10/2	O157	不明
42	患者	男	20代	中央	9/24	9/26	10/3	O157	VT1VT2
43	患者	男	10代	中央	9/30	10/2	10/4	O157	VT2
44	患者	女	70代	市外	10/19	10/20	10/23	OUT(OgGP5)	VT2
45	患者	女	10代	灘	10/30	11/2	11/7	O157	VT1VT2
46	無症状病原体保有者	男	50代	灘	-	11/10	11/13	O157	VT2
47	無症状病原体保有者	女	40代	灘	-	11/9	11/13	O157	VT2
48	無症状病原体保有者	女	50代	須磨	-	11/8	11/13	O91	VT1VT2
49	無症状病原体保有者	男	50代	東灘	-	11/22	11/22	O157	VT1VT2
50	患者	女	20代	西	11/20	11/25	11/26	O157	VT1VT2
51	患者	男	20代	長田	12/10	12/13	12/19	O26	VT1

表3 腸管出血性大腸菌感染症 発生状況(平成8年～令和6年)

表3-1 月別発生状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成8年						2	8	6	11	1	3	4	35
平成9年	0	1	0	2	1	2	8	23	2	2	1	0	42
平成10年	1	2	2	0	6	10	27	9	3	6	3	2	71
平成11年	0	1	3	0	4	25	9	22	13	27	3	1	108
平成12年	2	1	2	1	12	12	8	13	15	7	0	1	74
平成13年	0	0	0	4	9	9	15	18	22	9	2	3	91
平成14年	0	1	0	4	14	3	9	7	7	2	1	0	48
平成15年	1	1	2	0	0	2	6	6	5	3	5	0	31
平成16年	1	0	0	0	11	5	6	11	7	5	9	5	60
平成17年	2	0	2	1	2	4	4	12	3	6	0	2	38
平成18年	0	1	0	0	4	9	7	11	4	5	0	3	44
平成19年	0	2	1	0	4	12	12	12	14	6	4	15	82
平成20年	1	4	0	1	3	11	8	6	5	3	2	3	47
平成21年	0	1	4	0	4	4	4	10	14	2	2	1	46
平成22年	1	0	2	4	2	4	5	8	5	6	3	14	54
平成23年	0	1	0	0	5	10	12	9	3	4	2	0	46
平成24年	0	0	0	0	3	1	2	8	1	3	0	0	18
平成25年	0	2	0	2	2	15	0	9	4	2	1	3	40
平成26年	1	0	0	0	0	2	5	4	1	2	0	4	19
平成27年	0	0	1	0	3	2	7	3	4	0	0	4	24
平成28年	2	0	0	0	0	3	11	7	2	6	3	0	34
平成29年	0	0	0	0	2	5	4	10	9	3	2	1	36
平成30年	0	0	0	2	2	1	7	2	5	2	1	0	22
平成31/令和元年	1	2	1	0	3	13	8	4	16	9	5	2	64
令和2年	2	0	0	0	0	4	6	5	12	1	13	6	49
令和3年	0	1	0	1	1	0	7	4	3	2	5	1	25
令和4年	0	0	0	1	1	5	7	4	3	7	3	2	33
令和5年	0	0	1	1	5	5	12	18	6	4	1	5	58
令和6年	2	0	1	1	6	7	10	6	7	4	6	1	51
合計	17	21	22	25	109	187	234	267	206	139	80	83	1390

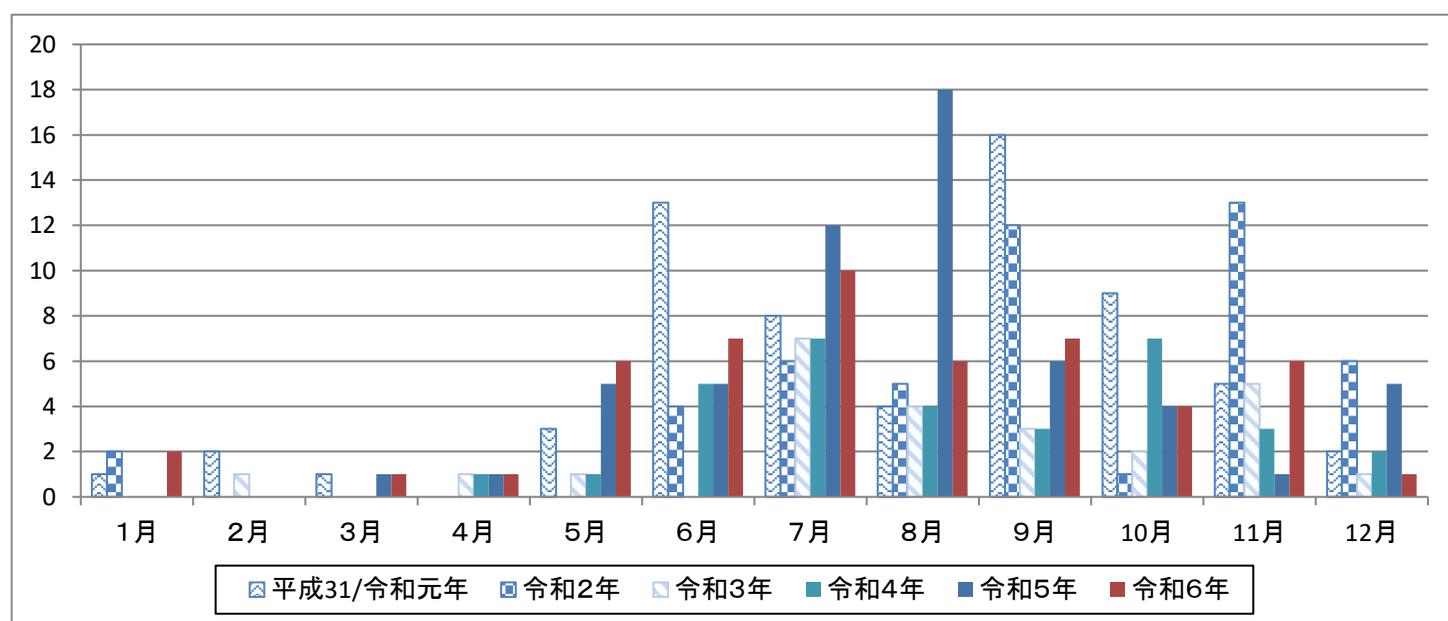


表3-2 年齢別発生状況

	0～4歳	5～9歳	10代	20代	30代	40代	50代以上	計
平成8年	11	6	7	7	3	1	0	35
平成9年	23	3	3	6	3	2	2	42
平成10年	22	21	4	7	9	6	2	71
平成11年	30	16	8	15	14	10	15	108
平成12年	8	18	10	15	8	6	9	74
平成13年	12	8	13	19	11	8	20	91
平成14年	4	8	8	10	5	5	8	48
平成15年	5	5	6	6	2	1	6	31
平成16年	9	15	11	8	1	4	12	60
平成17年	9	9	6	5	4	1	4	38
平成18年	10	1	6	8	4	6	9	44
平成19年	18	9	20	10	11	3	11	82
平成20年	10	8	10	12	2	3	2	47
平成21年	3	8	5	18	4	2	6	46
平成22年	6	8	7	14	7	5	7	54
平成23年	7	11	6	7	7	2	6	46
平成24年	3	3	1	3	2	4	2	18
平成25年	9	4	10	5	5	4	3	40
平成26年	2	4	3	3	2	1	4	19
平成27年	4	3	4	5	4	0	4	24
平成28年	5	11	3	4	5	2	4	34
平成29年	5	4	5	4	3	7	8	36
平成30年	2	0	4	8	0	5	3	22
平成31/令和元年	17	4	12	12	8	5	6	64
令和2年	4	11	8	7	1	4	14	49
令和3年	5	5	3	5	1	5	1	25
令和4年	6	2	4	7	2	6	6	33
令和5年	1	2	8	18	7	9	13	58
令和6年	4	3	11	14	2	4	13	51
合計	254	210	206	262	137	121	200	1390

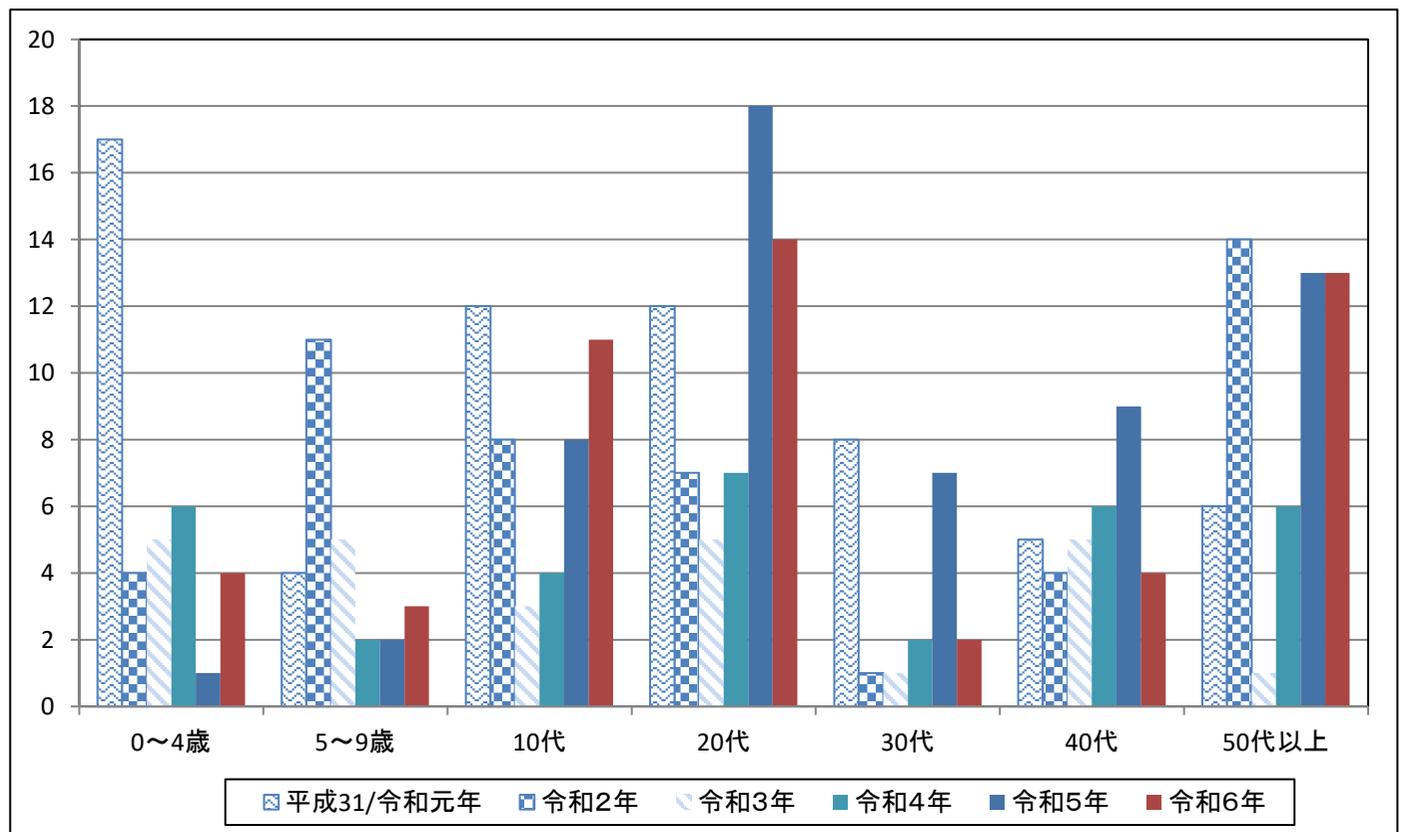


表3-3 区別発生状況(患者居住地)

	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	市外	合計
平成8年	3	4	7	1	2	0	4	2	12	0	35
平成9年	2	0	5	3	15	6	1	9	1	0	42
平成10年	1	9	4	2	10	1	3	29	9	3	71
平成11年	10	7	3	3	24	13	13	12	22	1	108
平成12年	10	10	4	2	8	4	11	5	15	5	74
平成13年	18	14	8	4	6	7	6	9	9	10	91
平成14年	2	1	3	4	7	1	12	2	10	6	48
平成15年	1	2	1	2	5	4	4	6	4	2	31
平成16年	5	3	6	1	11	3	7	6	14	4	60
平成17年	3	5	6	2	4	0	3	3	9	3	38
平成18年	4	2	4	11	7	1	5	1	6	3	44
平成19年	10	15	4	6	14	3	5	6	14	5	82
平成20年	4	2	5	0	5	2	8	9	7	5	47
平成21年	4	2	5	2	6	6	6	5	4	6	46
平成22年	4	5	3	3	4	4	5	3	13	10	54
平成23年	5	2	3	1	8	7	5	3	8	4	46
平成24年	1	2	1	0	4	0	1	1	6	2	18
平成25年	11	1	3	2	8	1	6	2	4	2	40
平成26年	2	1	2	0	4	0	2	0	4	4	19
平成27年	1	1	1	2	4	2	2	1	8	2	24
平成28年	4	3	3	1	5	1	1	6	7	3	34
平成29年	4	9	1	4	3	3	1	5	4	2	36
平成30年	4	2	2	0	5	2	1	0	4	2	22
平成31/令和元年	7	4	13	5	9	5	6	5	4	6	64
令和2年	1	5	7	2	5	3	12	3	7	4	49
令和3年	3	2	4	0	8	2	4	1	1	0	25
令和4年	3	1	0	2	9	1	4	5	4	4	33
令和5年	6	1	7	6	9	8	5	4	8	4	58
令和6年	6	8	3	2	8	4	5	3	7	5	51
合計	139	123	118	73	217	94	148	146	225	107	1390

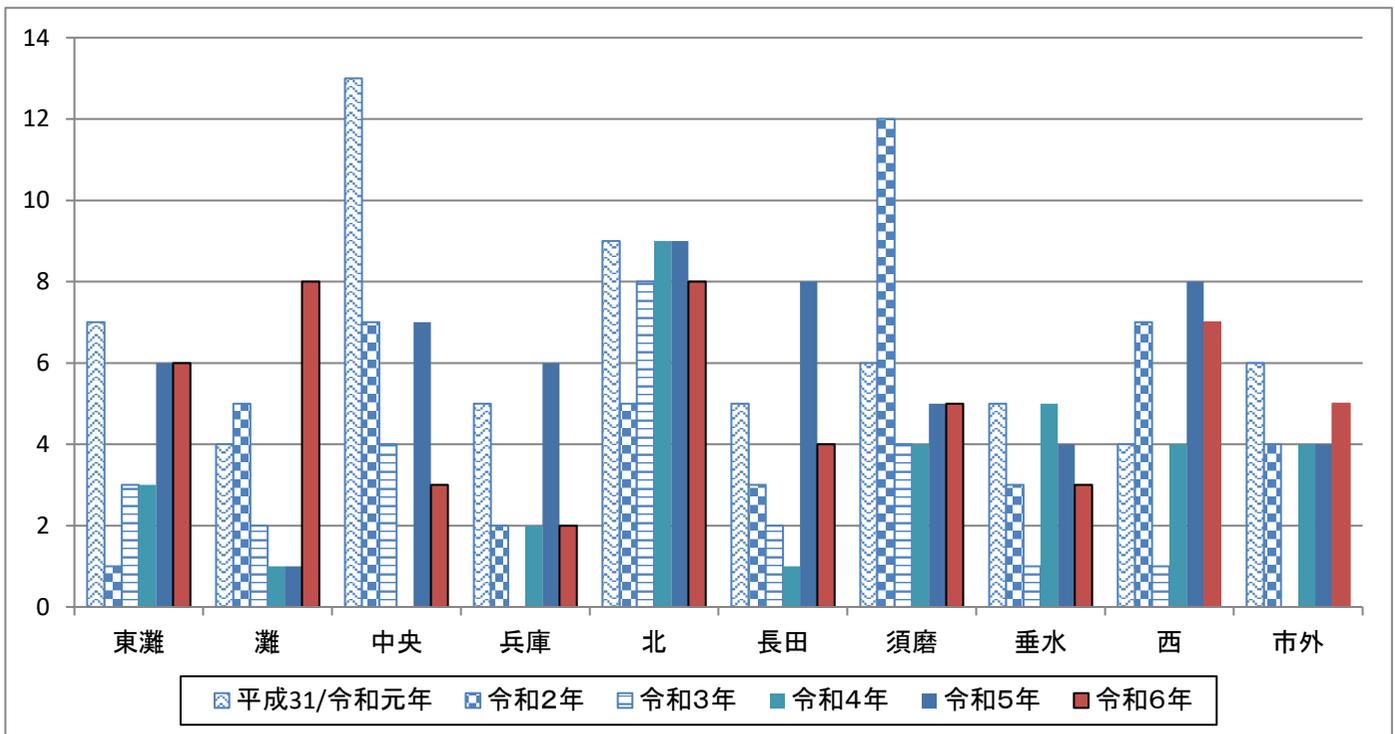


表3-4 血清型別・患者・保菌者別発生状況

	0157 患者数	0157 保菌者数	026 患者数	026 保菌者数	01 患者数	06 保菌者数	08 保菌者数	018 患者数	025 患者数	091 患者/保菌者	0103 患者/保菌者	0111 患者/保菌者	0115 患者/保菌者	0121 患者数	0126 患者数	0128 患者/保菌者	0136 保菌者数	0137 保菌者数	0143 患者数	0145 患者/保菌者	0146 保菌者数	0165 患者数	0168 患者/保菌者	OUT 患者/保菌者
平成8年	25	6										4												
平成9年	18	21	3																					
平成10年	28	41	2																					
平成11年	47	44	5	12																				
平成12年	34	30	6	2								1		1										
平成13年	44	42	2	1								2												
平成14年	27	18	1		1	1																		
平成15年	19	10	2																					
平成16年	38	18	4																					
平成17年	19	8	9	1								1												
平成18年	29	11	3												1									
平成19年	40	22	7	1				1	1	1				5						1				3
平成20年	29	9	4							1				1		1				2				
平成21年	34	6	2							1				1		1								1
平成22年	46	5	2										1											
平成23年	28	7	2	2							2	1		1						3				
平成24年	13	2	2	1																				
平成25年	25	6	5	1				1		1				1										
平成26年	13	2	2	1																				1
平成27年	10	5	2	1										1						1		2		2
平成28年	25	9																						
平成29年	17	9	4									1		1		1			1	2			1	
平成30年	11	3	1	1			1							2						2				1
平成31/令和元年	31	13	1									1								14				4
令和2年	22	9	4	3									1			1					2			7
令和3年	10	3	7	2							1	1												1
令和4年	18	7	1	3												1		1				1		1
令和5年	40	10		1							1		4											2
令和6年	28	9	3	2						2		2					1							4
合計	768	385	86	35	1	1	1	2	1	6	4	14	6	13	2	5	1	1	1	25	2	3	1	27

平成29年 混合感染1例(O121・O143)あり

表4 四・五類（全数把握）感染症 発生状況

疾患別発生状況

令和6年第1週(1/1-7)～第52週(12/23-29)診断分

病名		病型／種別（病原体）	報告数	
四類	E型肝炎		1	38
	デング熱	デング熱	1	
	日本紅斑熱		10	
	ブルセラ症		1	
	レジオネラ症	肺炎型	23	
	レプトスピラ症		2	
五類	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	8	336
	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)	B型	3	
		EBウイルス	1	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Enterobacter	5	
		Escherichia	1	
		Klebsiella	10	
		Morganella	1	
		Proteus	1	
		Serratia	2	
		急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、 ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、 ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	A型インフルエンザウイルス	
	B型インフルエンザウイルス		2	
	エンテロウイルス		2	
	パラインフルエンザウイルス		2	
	その他のウイルス		2	
	病原体不明		4	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	古典型クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群	17	
		B群	2	
		G群	7	
	後天性免疫不全症候群	無症候性キャリア	6	
		AIDS	4	
	ジアルジア症		2	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	莢膜型non-typable	8	
		血清型未実施	2	
	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型同定済	32	
		血清型未実施	3	
	水痘（入院例に限る。）	検査診断例	4	
		臨床診断例	6	
	梅毒	早期顕症梅毒（I期）	54	
		早期顕症梅毒（II期）	39	
		晩期顕症梅毒	3	
先天梅毒		1		
無症候（無症状病原保有者）		40		
播種性クリプトコックス病		5		
破傷風		1		
百日咳		50		
風しん	検査診断例	0		
	臨床診断例	0		
麻しん	検査診断例	3		
	臨床診断例	0		
計			377	

表5 四類（全数把握）感染症 発生状況

令和6年第1週(1/1-7)～第52週(12/23-29) 診断分

番号	診断月日	性別	年齢	病名	病型／病原体	推定感染経路	推定感染地域	区名 (届出医療機関)
1	1.11	男	20代	デング熱	デング熱	蚊からの感染	国外(パラグアイ)	中央
2	1.17	女	70代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	西
3	1.19	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	中央
4	1.24	男	70代	レジオネラ症	肺炎型/ Legionella pneumophila SG1、 遺伝子型(ST) 818及び新規	不明	不明	北
5	2.5	男	80歳以上	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	中央
6	2.19	男	80歳以上	レジオネラ症	肺炎型/ Legionella pneumophila SG1、 遺伝子型(ST) 1823	水系感染(疑い)	国内	長田
7	3.29	女	70代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	垂水
8	4.16	男	70代	レジオネラ症	肺炎型/ 遺伝子検査:陽性、 Nested SBT法によりST609	不明	不明	兵庫
9	4.21	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	西
10	5.2	男	80歳以上	レジオネラ症	肺炎型	水系感染(疑い)	国内	須磨
11	5.11	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染(疑い)	国外(タイ)	垂水
12	6.3	男	80歳以上	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	中央
13	6.13	男	60代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	須磨
14	6.19	男	60代	日本紅斑熱	—	昆虫等からの感染	国内	中央
15	7.2	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	中央
16	7.3	男	60代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	須磨
17	7.9	男	50代	レジオネラ症	肺炎型/ Legionella pneumophila SG1、 遺伝子型(ST) 120	不明	国内	中央
18	7.12	男	80歳以上	レジオネラ症	肺炎型/ Legionella bozemanæ	不明	国内	西
19	7.12	男	60代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染(疑い)	国内	北
20	8.1	男	0～4歳	ブルセラ症	—	不明	国外(中国)	長田
21	8.26	女	10代	レプトスピラ症	血清型Rachmati	水系感染(川遊び)	国内	西
22	8.28	女	20代	日本紅斑熱	—	昆虫等からの感染	国内	兵庫
23	8.29	男	50代	日本紅斑熱	—	昆虫等からの感染	国内	兵庫
24	9.2	女	60代	日本紅斑熱	—	昆虫等からの感染	国内	中央
25	8.28	女	50代	日本紅斑熱	—	昆虫等からの感染	国内	東灘
26	9.5	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	不明	不明	中央
27	9.9	男	70代	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	中央
28	9.11	男	20代	レプトスピラ症	血清型Hebdomadis	水系感染(川遊び)	国内	東灘
29	9.13	男	80歳以上	レジオネラ症	肺炎型/ Legionella pneumophila SG1、 遺伝子型(ST) 1760	不明	国内	東灘
30	9.26	男	70代	日本紅斑熱	—	昆虫等からの感染	国内	中央
31	10.16	男	40代	日本紅斑熱	—	昆虫等からの感染	国内	灘
32	10.23	男	70代	日本紅斑熱	—	昆虫等からの感染	国内	兵庫
33	11.7	男	70代	日本紅斑熱	—	昆虫等からの感染	国内	東灘
34	11.7	男	50代	日本紅斑熱	—	昆虫等からの感染	国内	東灘
35	11.13	女	80歳以上	レジオネラ症	肺炎型	水系感染(疑い)	国内	西
36	12.9	男	50代	E型肝炎	遺伝子型:G3 サブタイプ:3b	不明	不明	兵庫
37	12.14	男	60代	レジオネラ症	肺炎型	水系感染(疑い)	国外(ハワイ)	垂水
38	12.25	男	80歳以上	レジオネラ症	肺炎型	不明	国内	須磨

表6-1 五類（全数把握）感染症 発生状況（麻しん・風しん以外）

令和6年第1週(1/1-7)～第52週(12/23-29)診断分

番号	診断月日	性別	年齢	病名	病型／類型／病原体	推定感染経路／ワクチン接種歴	推定感染地域	区名 <small>(届出医療機関)</small>
1	1. 5	男	70代	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Klebsiella pneumoniae、 IMP-6、CTX-M-1型、TEM型、SHV型、 CTX-M-2型β-ラクタマーゼ検出	以前からの保菌（詳細不明）	国内	長田
2	1. 12	男	60代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型22F	飛沫・飛沫核感染（詳細不明）／無	国内	兵庫
3	1. 12	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	同性間性的接触	国内	中央
4	1. 12	女	70代	侵襲性インフルエンザ菌感染症	莢膜型non-typable	不明／無	国内	中央
5	1. 2	男	10代	急性脳炎	インフルエンザウイルスA	不明	国内	中央
6	1. 9	男	0～4歳	急性脳炎	病原体不明	不明	国内	中央
7	1. 16	女	5～9歳	急性脳炎	インフルエンザウイルスB	不明	国内	中央
8	1. 15	女	40代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別：型別不能	不明	国内	中央
9	1. 15	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
10	1. 15	女	0～4歳	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型23A	不明／あり（4回）	国内	中央
11	1. 17	男	40代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別：T1型	不明	国内	中央
12	1. 19	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
13	1. 23	男	60代	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	不明	国内	北
14	1. 23	男	70代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型24/(24A/24B/24F)	不明／あり（1回）	国内	中央
15	1. 20	女	40代	百日咳	-	不明/不明	国内	中央
16	1. 24	男	70代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
17	1. 22	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	同性間性的接触	国内	垂水
18	1. 25	女	0～4歳	急性脳炎	ヒトコロナウイルスOC43	不明	国内	中央
19	1. 24	男	10代	急性脳炎	インフルエンザウイルスB	不明	国内	中央
20	1. 25	男	60代	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	異性間性的接触	国内	灘
21	1. 27	女	0～4歳	侵襲性肺炎球菌感染症	-	不明／あり（3回）	国内	西
22	1. 24	女	80歳以上	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Proteus mirabilis、 CTX-M-2型β-ラクタマーゼ検出	不明	国内	兵庫
23	1. 30	男	70代	水痘(入院例に限る。)	臨床診断例	不明/不明	国内	中央
24	2. 6	男	70代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	東灘
25	2. 9	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
26	2. 10	女	0～4歳	百日咳	-	家族内感染（同胞）／無	国内	灘
27	2. 13	女	10代	百日咳	-	不明／4回	国内	西
28	2. 9	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	不明	国内	中央
29	2. 13	男	5～9歳	百日咳	-	家族内感染（母親）／4回	国内	東灘
30	2. 14	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	灘
31	2. 14	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
32	2. 14	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	垂水
33	2. 14	男	5～9歳	急性脳炎	インフルエンザウイルスA	不明	国内	中央
34	2. 16	女	30代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
35	2. 16	男	70代	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	不明	国内	兵庫
36	2. 16	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
37	2. 16	男	70代	後天性免疫不全症候群	無症状病原体保有者	不明	不明	東灘
38	2. 26	男	40代	梅毒	無症状病原体保有者	不明	不明	灘
39	2. 20	男	5～9歳	百日咳	-	不明／不明	国内	灘
40	2. 26	男	50代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型22F/22A	飛沫感染／無	国内	長田
41	2. 27	女	5～9歳	百日咳	-	不明／4回	国内	灘
42	2. 27	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	西
43	2. 29	女	20代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
44	2. 20	男	40代	梅毒	無症状病原体保有者	不明	不明	兵庫
45	3. 1	女	10代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
46	2. 29	男	10代	水痘(入院例に限る。)	臨床診断例	不明/不明	国内	西
47	3. 2	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	性的接触(異性間か同性間かは不明)	不明	西
48	2. 28	女	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	不明	長田
49	3. 1	男	60代	侵襲性インフルエンザ菌感染症	莢膜型non-typable	不明/不明	国内	中央
50	2. 29	男	50代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型10A	不明/不明	国内	中央
51	3. 6	男	60代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	北
52	3. 6	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
53	3. 10	女	30代	梅毒	無症状病原体保有者	性的接触(異性間か同性間かは不明)	不明	北
54	3. 4	男	60代	梅毒	晩期顕症梅毒	性的接触(異性間か同性間かは不明)	国内	中央
55	2. 28	女	30代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	不明	西
56	3. 15	男	40代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
57	3. 11	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
58	3. 15	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
59	3. 15	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
60	3. 15	男	60代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
61	3. 12	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
62	3. 21	男	80歳以上	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型19A	不明／無	国内	中央
63	3. 18	男	0～4歳	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	B群 血清型別：Ib型	不明	国内	中央
64	3. 25	男	60代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型22F/22A	不明／無	国内	長田
65	3. 19	男	70代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型6C/6D	不明／無	国内	中央
66	3. 19	男	5～9歳	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型35B	飛沫・飛沫核感染（詳細不明）／無	国内	北
67	3. 29	女	0～4歳	急性脳炎	エンテロウイルス	不明	国内	中央
68	3. 27	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
69	3. 29	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	灘
70	3. 18	女	0～4歳	急性脳炎	ヒトヘルペスウイルス6	不明	国内	中央
71	3. 29	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
72	3. 25	女	80歳以上	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	G群	創傷感染（疑い）	国内	中央
73	4. 1	女	80歳以上	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	G群	不明	国内	中央
74	4. 4	女	40代	百日咳	-	不明／不明	国内	垂水
75	4. 2	男	80歳以上	播種性クリプトコックス症	-	不明	国内	北

番号	診断月日	性別	年齢	病名	病型／類型／病原体	推定感染経路／ワクチン接種歴	推定感染地域	区名 (届出医療機関)
76	3.29	女	10代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
77	4.5	男	80歳以上	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別：型別不能	創傷感染（右下腿糖尿病性皮膚潰瘍）	国内	中央
78	4.4	女	70代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	G群	創傷感染（右上肢）	国内	西
79	4.3	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	北
80	3.6	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	不明	不明	東灘
81	4.15	男	10代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	兵庫
82	4.8	男	70代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別：TB3264型	不明	国内	中央
83	4.12	男	80歳以上	梅毒	無症状病原体保有者	不明	不明	北
84	4.12	男	40代	ジアルジア症	-	経口感染	国外（インドネシア）	中央
85	4.17	女	70代	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Escherichia coli、 TEM型、DHA型 β-ラクタマーゼ検出	以前からの保菌 (保菌部位：骨盤内)	国内	中央
86	4.16	女	30代	侵襲性肺炎球菌感染症	-	副鼻腔炎からの波及／無	国内	中央
87	4.17	女	30代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型35B	不明／不明	不明	兵庫
88	4.17	男	70代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別：型別不能	創傷感染（右脚・右手）	国内	兵庫
89	4.18	女	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	東灘
90	4.15	女	10代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	長田
91	4.22	男	50代	水痘(入院例に限る。)	臨床診断例	不明／無	国内	垂水
92	4.23	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	兵庫
93	4.22	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
94	4.17	男	50代	後天性免疫不全症候群	AIDS	性的接触(異性間か同性間かは不明)	国内	中央
95	4.30	男	80歳以上	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型35B	飛沫・飛沫核感染（詳細不明）／無	国内	兵庫
96	4.23	男	40代	梅毒	無症状病原体保有者	不明	不明	須磨
97	4.30	男	80歳以上	侵襲性インフルエンザ菌感染症	莢膜型non-typable	飛沫・飛沫核感染（詳細不明）／不明	国内	中央
98	4.27	男	0～4歳	急性脳炎	パラインフルエンザ3型	不明	国内	中央
99	5.2	男	70代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型19A	飛沫・飛沫核感染（詳細不明）／無	国内	東灘
100	5.2	女	5～9歳	急性脳炎	病原体不明	不明	国内	中央
101	5.8	女	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
102	4.25	女	80歳以上	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型33F/(33A/37)	不明／無	国内	東灘
103	5.8	女	30代	百日咳	-	不明／不明	国内	垂水
104	5.7	男	30代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別：T4型	不明	国内	西
105	5.9	男	70代	侵襲性肺炎球菌感染症	-	不明／3回	国内	西
106	5.7	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	不明	不明	兵庫
107	5.6	女	70代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	B群 血清型別：Ⅳ型	創傷感染（両下肢うっ滞性皮膚炎）	国内	中央
108	5.10	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
109	5.10	女	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
110	5.13	男	60代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型10A	不明	国内	中央
111	5.15	女	20代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
112	5.2	男	20代	ウイルス性肝炎	EBウイルス	不明	国内	中央
113	5.19	男	0～4歳	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型10A	飛沫・飛沫核感染（詳細不明）／3回	国内	長田
114	5.18	男	60代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	北
115	1.4	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	北
116	4.22	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	北
117	4.30	男	20代	後天性免疫不全症候群	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
118	5.21	女	80歳以上	クロイツフェルト・ヤコブ病	古典型クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)	-	-	垂水
119	5.20	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	東灘
120	5.18	男	50代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別：型別不能	不明	国内	中央
121	5.15	男	30代	梅毒	無症状病原体保有者	不明	国外（インドネシア）	長田
122	5.21	男	70代	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Klebsiella aerogenes、 クラスCβ-ラクタマーゼ産生、 PCR法による薬剤耐性遺伝子は陰性	以前からの保菌 (保菌部位：胆汁)	国内	須磨
123	5.24	男	70代	播種性クリプトコックス症	-	免疫不全（肝硬変）	国内	中央
124	5.21	男	10代	ウイルス性肝炎	B型(遺伝子型:A型)	性的接触(異性間か同性間かは不明)／無	国内	中央
125	5.22	女	50代	破傷風	-	副鼻腔炎／不明	国内	中央
126	5.23	女	40代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別：型別不能	創傷感染（両下肢の皮疹）	国内	長田
127	5.27	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	垂水
128	5.30	女	20代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
129	5.31	男	50代	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	飛沫・飛沫核感染（詳細不明）／不明	国内	中央
130	5.24	女	0～4歳	百日咳	-	不明／4回	国内	西
131	5.31	女	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	灘
132	5.10	女	70代	播種性クリプトコックス症	-	免疫不全（全身性エリテマトーデス）	国内	中央
133	5.25	男	80歳以上	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型18/(18A/18B/18C/18F)	バルーン長期留置／不明	国内	中央
134	6.3	女	80歳以上	侵襲性インフルエンザ菌感染症	莢膜型non-typable	不明／不明	国内	長田
135	6.6	男	80歳以上	水痘(入院例に限る。)	検査診断例	不明／不明	国内	兵庫
136	6.7	女	0～4歳	百日咳	-	不明／1回	不明	灘
137	6.6	女	80歳以上	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Enterobacter cloacae complex、 IMP-1、TEM型・CTX-M-1型 β-ラクタマーゼ検出	不明	不明	北
138	6.5	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
139	6.12	女	60代	百日咳	-	家族内感染（子）／不明	国外（フランス）	灘
140	6.12	女	30代	梅毒	無症状病原体保有者	不明	不明	兵庫
141	6.14	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
142	6.14	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
143	6.13	女	60代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別：型別不能	尿路感染症	国内	北
144	6.13	女	80歳以上	梅毒	無症状病原体保有者	不明	不明	北
145	6.11	男	5～9歳	急性脳炎	パラインフルエンザウイルス	不明	国内	中央
146	6.15	男	0～4歳	急性脳炎	エンテロウイルス	不明	国内	中央

番号	診断月日	性別	年齢	病名	病型／類型／病原体	推定感染経路／ワクチン接種歴	推定感染地域	区名 (届出医療機関)
147	6.18	女	70代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型22F/22A	不明/1回	国内	中央
148	6.18	男	60代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型22F/22A	不明/無	国内	垂水
149	6.13	男	70代	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Klebsiella aerogenes, クラスCβラクタマーゼ産生、 PCR法による既知の耐性遺伝子は陰性	不明	国内	兵庫
150	6.19	男	80歳以上	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別：型別不能	創傷感染（右下腿疑い）	国内	中央
151	6.14	男	80歳以上	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Klebsiella aerogenes, クラスCβラクタマーゼ産生、 PCR法による既知の耐性遺伝子は陰性	以前からの保菌（尿路系）	国内	垂水
152	6.18	女	10代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
153	6.19	女	80歳以上	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	不明/不明	国内	兵庫
154	6.24	男	30代	百日咳	MLVA型：MT27	家族内感染（子）/4回	国内	西
155	6.24	女	0~4歳	百日咳	MLVA型：MT27	家族内感染（父親・同胞）/無	国内	西
156	6.25	女	80歳以上	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Klebsiella aerogenes, クラスAの表現型、 CTX-M-1型βラクタマーゼ検出	尿路カテーテル	国内	灘
157	6.29	女	80歳以上	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Enterobacter cloacae complex, クラスCβラクタマーゼ産生、 PCR法による薬剤耐性遺伝子は陰性	以前からの保菌（尿路系）	国内	灘
158	7.1	女	20代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
159	7.3	男	70代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型3	不明/不明	不明	中央
160	7.3	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
161	7.8	女	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	垂水
162	7.6	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
163	7.9	男	80歳以上	水痘(入院例に限る。)	臨床診断例	不明/不明	国内	須磨
164	7.10	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
165	6.27	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
166	7.12	男	30代	梅毒	無症状病原体保有者	不明	不明	兵庫
167	7.12	女	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
168	7.17	女	0~4歳	梅毒	先天梅毒	母子感染（胎内）	国内	中央
169	7.12	女	40代	侵襲性インフルエンザ菌感染症	荚膜型non-typable	接触感染/不明	国内	中央
170	7.19	男	70代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
171	7.19	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
172	7.22	男	50代	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Klebsiella aerogenes	以前からの保菌（胆道）	国内	北
173	7.5	女	70代	梅毒	無症状病原体保有者	不明	国内	兵庫
174	7.23	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	東灘
175	7.23	男	30代	梅毒	無症状病原体保有者	不明	不明	東灘
176	7.23	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
177	7.19	女	10代	百日咳	-	不明/4回	国内	北
178	7.13	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	兵庫
179	7.26	女	40代	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	不明	国内	中央
180	7.30	男	10代	百日咳	-	不明/4回	国内	長田
181	7.31	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
182	8.2	男	30代	後天性免疫不全症候群	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内	中央
183	8.1	男	70代	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Enterobacter aerogenes, クラスCβラクタマーゼ産生、 PCR法による薬剤耐性遺伝子は陰性	以前からの保菌（気道）	国内	中央
184	8.3	男	20代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
185	8.5	男	10代	百日咳	-	不明/4回	国内	長田
186	8.2	男	60代	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	不明	不明	東灘
187	8.3	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	垂水
188	7.29	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	東灘
189	8.5	男	10代	百日咳	-	学校/不明	国内	垂水
190	8.6	女	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	垂水
191	8.6	女	20代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
192	8.8	男	20代	後天性免疫不全症候群	AIDS	性的接触（同性間か異性間かは不明）	国外（ネパール）	中央
193	8.8	男	20代	播種性クリプトコックス症	-	免疫不全（AIDS、同時に診断、未治療）	不明	中央
194	8.6	男	5~9歳	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型7C/(7B/40)	不明/4回	不明	中央
195	7.29	男	20代	後天性免疫不全症候群	AIDS	不明	国内	中央
196	8.14	男	5~9歳	百日咳	-	家族内感染（母親・同胞）/不明	国内	西
197	8.15	女	30代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	西
198	8.17	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	東灘
199	8.13	男	20代	百日咳	-	不明/不明	国内	中央
200	8.19	男	20代	梅毒	無症状病原体保有者	不明	国内	中央
201	8.20	男	80歳以上	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別：T1型	創傷感染（左手背挫傷）	国内	兵庫
202	8.20	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	西
203	8.20	男	40代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
204	8.19	男	70代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	G群	不明	国内/国外（ハワイ）	中央
205	8.22	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	北
206	8.23	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	同性間性的接触	国内	中央
207	8.22	男	70代	百日咳	-	不明/不明	国内	中央
208	8.20	女	70代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別：T1型	創傷感染（拇趾創傷）	国内	中央
209	8.26	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
210	8.27	女	20代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
211	8.26	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	東灘
212	8.28	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
213	8.28	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
214	8.30	女	40代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
215	8.26	男	70代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別：TB3264型	創傷感染（趾間の創傷）	国内	兵庫
216	9.2	男	80歳以上	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	G群	不明	国内	中央
217	9.2	男	5~9歳	百日咳	-	不明/4回	国内	東灘
218	9.2	男	0~4歳	水痘(入院例に限る。)	検査診断例	不明/1回	国内	中央

番号	診断月日	性別	年齢	病名	病型／類型／病原体	推定感染経路／ワクチン接種歴	推定感染地域	区名 (届出医療機関)
219	9.3	男	10代	百日咳	-	不明／4回	国内	中央
220	9.4	女	10代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
221	9.4	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
222	9.8	男	0～4歳	水痘(入院例に限る。)	臨床診断例	院内感染／無	国内	中央
223	9.9	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	垂水
224	9.13	男	10代	水痘(入院例に限る。)	検査診断例	不明／無	国内	兵庫
225	9.13	男	0～4歳	水痘(入院例に限る。)	臨床診断例	院内感染／無	国内	中央
226	7.3	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	灘
227	9.13	男	40代	ウイルス性肝炎	B型(遺伝子型:A型)	不明／無	国内	中央
228	9.18	男	40代	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	不明	不明	北
229	9.20	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
230	9.20	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
231	9.20	男	10代	百日咳	-	不明／4回	国内	須磨
232	9.24	女	30代	百日咳	-	家族内感染(子)／無	国内	垂水
233	9.23	女	70代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型3	飛沫・飛沫核／無	国内	北
234	9.27	男	0～4歳	水痘(入院例に限る。)	検査診断例	不明／1回	国内	中央
235	9.25	男	20代	ウイルス性肝炎	B型(遺伝子型:C型)	異性間性的接触／有	国内	中央
236	10.1	男	50代	後天性免疫不全症候群	無症状病原体保有者	不明	不明	長田
237	10.2	女	80歳以上	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	G群	創傷感染(右下肢)	国内	兵庫
238	10.2	男	40代	後天性免疫不全症候群	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内	中央
239	10.4	男	20代	梅毒	無症状病原体保有者	同性間性的接触	不明	中央
240	10.4	男	60代	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Morganella morganii、 DHA型β-ラクタマーゼ検出	広範囲熱傷	国内	中央
241	10.5	男	60代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	東灘
242	10.8	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	不明	北
243	10.9	女	20代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
244	10.4	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	垂水
245	10.11	男	50代	梅毒	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内	中央
246	10.12	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	灘
247	10.12	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
248	10.11	女	10代	百日咳	-	学校／不明	国内	垂水
249	10.12	女	10代	百日咳	-	不明／4回	国内	東灘
250	10.12	女	10代	百日咳	-	不明／4回	国内	東灘
251	10.17	男	50代	百日咳	-	不明／不明	国内	兵庫
252	10.18	男	40代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
253	10.18	男	20代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
254	10.17	男	40代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型22F/22A	不明／無	国内	中央
255	10.21	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	同性間性的接触	国内	中央
256	10.19	女	20代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	灘
257	10.18	男	40代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	G群	不明	国内	中央
258	10.25	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	不明	灘
259	10.28	女	60代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
260	10.29	女	0～4歳	百日咳	-	不明／3回	国外(ニュージーランド)	東灘
261	10.29	女	30代	百日咳	-	不明／不明	国内	垂水
262	10.26	男	70代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 I血清型別:型別不能	創傷感染(右足部)	国内	兵庫
263	10.25	女	5～9歳	百日咳	-	不明／4回	国内	西
264	10.30	男	40代	後天性免疫不全症候群	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
265	10.24	男	60代	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	不明	国内	東灘
266	10.31	男	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
267	10.28	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	性的接触(異性間か同性間かは不明)	国内	東灘
268	10.24	男	10代	百日咳	-	不明／不明	国内	西
269	11.2	女	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	灘
270	11.1	女	20代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	北
271	11.5	男	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
272	10.26	男	70代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群	不明	国内	中央
273	11.6	男	5～9歳	百日咳	-	不明／4回	国内	西
274	10.31	男	0～4歳	百日咳	-	家族内感染(母親・同胞)／3回	国内	中央
275	11.5	男	50代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国外(タイ)	中央
276	11.9	女	80歳以上	侵襲性インフルエンザ菌感染症	荚膜型non-typable	カテーテル感染の疑い／不明	国内	兵庫
277	11.9	男	5～9歳	百日咳	-	不明／4回	国内	東灘
278	11.8	女	40代	梅毒	無症状病原体保有者	不明	不明	長田
279	11.7	女	60代	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Klebsiella aerogenes, クラスCβ ラクタマーゼ産生、 PCR法による既知の耐性遺伝子は陰性	以前からの保菌(口腔内または尿路)	国内	中央
280	11.5	男	40代	後天性免疫不全症候群	AIDS	不明	不明	中央
281	11.13	男	80歳以上	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型10A	不明／不明	国内	中央
282	11.11	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	兵庫
283	11.12	女	5～9歳	百日咳	-	不明／4回	国内	長田
284	11.9	女	80歳以上	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Serratia marcescens, クラスCβ ラクタマーゼ産生、 PCR法による既知の耐性遺伝子は陰性	院内感染 (他院からの転院時すでに保菌の可能性有)	国内	兵庫
285	11.18	女	40代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型22F/22A	飛沫・飛沫核感染／無	国内	西
286	11.17	男	5～9歳	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型16	不明／4回	国内	中央
287	11.21	男	70代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型35B	不明／無	国内	中央
288	11.21	女	80歳以上	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Enterobacter cloacae complex, クラスCβ ラクタマーゼ産生、 PCR法による既知の耐性遺伝子は陰性	不明 (他院からの転院時すでに保菌状態と考える)	国内	東灘
289	11.25	女	10代	百日咳	-	不明／3回	国内	長田
290	11.22	男	10代	百日咳	-	学校(疑い)／4回	国内	須磨
291	11.26	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	同性間性的接触	国内	中央
292	11.23	男	10代	急性脳炎	インフルエンザウイルスA	不明	国内	中央
293	11.26	男	10代	百日咳	-	不明／4回	国内	東灘

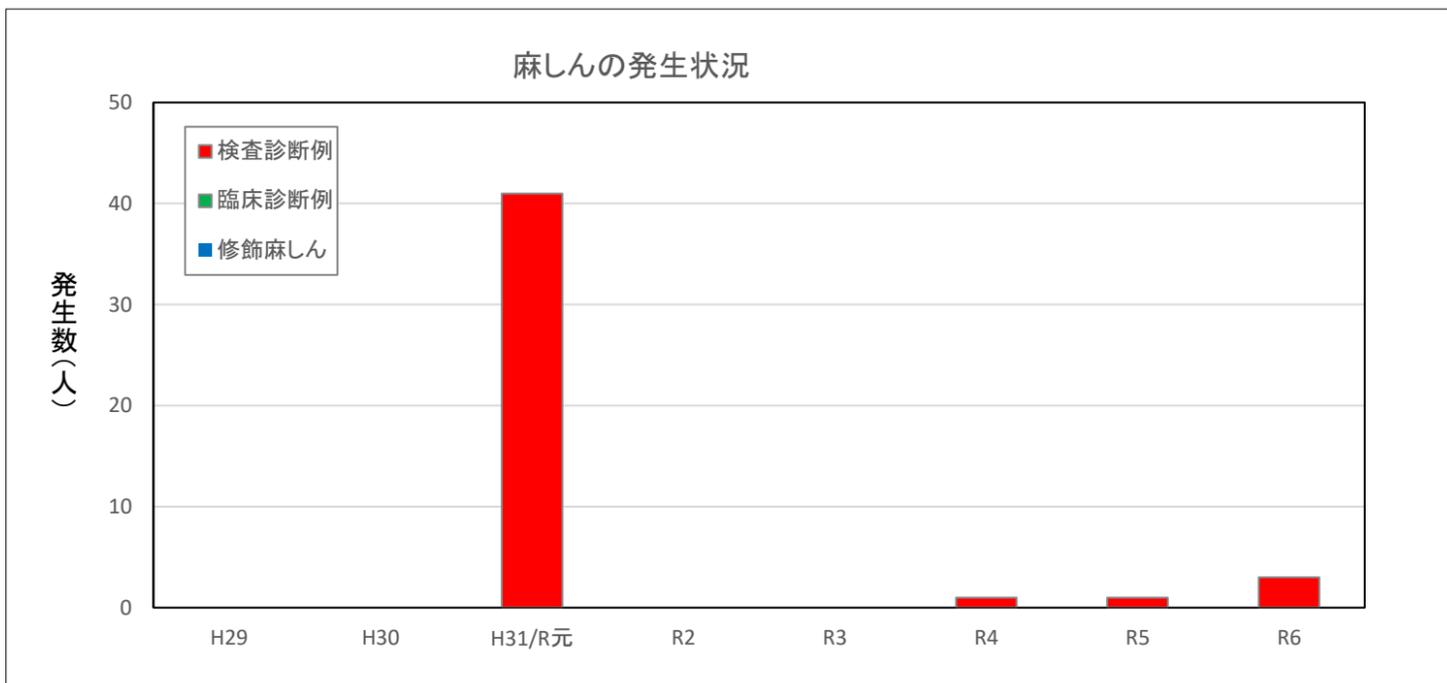
番号	診断 月日	性別	年齢	病名	病型／類型／病原体	推定感染経路／ワクチン接種歴	推定感染地域	区名 (届出医療機関)
294	11.22	男	40代	梅毒	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内	東灘
295	11.21	男	40代	梅毒	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内	中央
296	11.25	女	40代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	北
297	11.29	男	70代	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Serratia marcescens, クラスCβ ラクタマーゼ産生、 PCR法による既知の耐性遺伝子は陰性	医療器具関連感染 (中心静脈カテーテル)	国内	中央
298	11.28	男	70代	梅毒	晩期顕症梅毒	異性間性的接触	国内	西
299	12.2	女	30代	梅毒	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内	中央
300	11.27	男	50代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	国内	中央
301	12.3	男	70代	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Enterobacter cloacae complex, クラスCβ ラクタマーゼ産生、 EBC型β-ラクタマーゼ検出	以前からの保菌(尿) もしくは、院内感染	国内	兵庫
302	12.2	女	5~9歳	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型15B/15C	不明/4回	国内	中央
303	12.4	女	10代	百日咳	-	不明/4回	国内	西
304	12.5	男	20代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型19A	学童保育/無	国内	長田
305	12.5	女	80歳以上	侵襲性インフルエンザ菌感染症	荚膜型non-typable	不明/不明	国内	兵庫
306	12.5	男	10代	百日咳	-	不明/4回	国内	東灘
307	12.6	男	60代	播種性クリプトコックス症	-	免疫不全(関節リウマチ)	国内	長田
308	12.9	女	0~4歳	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型15A/15F	不明/不明	国内	中央
309	12.9	男	0~4歳	百日咳	-	不明/無	国内	西
310	11.30	女	40代	百日咳	-	家族内感染(子)/不明	国内	中央
311	12.11	女	80歳以上	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Klebsiella aerogenes, クラスCβ ラクタマーゼ産生、 PCR法による既知の耐性遺伝子は陰性	手術部位感染	国内	北
312	12.9	女	20代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅱ期	異性間性的接触	国内	中央
313	12.12	男	50代	梅毒	晩期顕症梅毒	異性間性的接触	国内	中央
314	12.10	男	70代	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別:型別不能	創部感染(左下腿潰瘍)	国内	中央
315	12.16	女	60代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型35F/47F	不明	国内	長田
316	12.13	女	10代	急性脳炎	インフルエンザウイルスA	不明	国内	中央
317	12.14	男	0~4歳	急性脳炎	病原体不明	不明	国内	中央
318	12.12	男	40代	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型23A	不明/無	国内	東灘
319	12.17	男	10代	急性脳炎	病原体不明	不明	国内	中央
320	12.11	女	10代	百日咳	-	学校/不明	国内	西
321	12.14	男	10代	百日咳	-	不明/4回	国内	西
322	12.17	男	10代	百日咳	-	学校/不明	国内	西
323	12.18	男	10代	急性脳炎	インフルエンザウイルスA	飛沫・飛沫核	国内	西
324	12.13	女	70代	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Klebsiella aerogenes, クラスCβ ラクタマーゼ産生、 PCR法による既知の耐性遺伝子は陰性	その他(胆管炎からの敗血症)	国内	中央
325	12.17	男	80歳以上	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	Klebsiella aerogenes, クラスCβ ラクタマーゼ産生、 PCR法による既知の耐性遺伝子は陰性	手術部位感染	国内	中央
326	12.21	男	5~9歳	百日咳	-	不明/4回	国内	垂水
327	12.25	男	80歳以上	侵襲性肺炎球菌感染症	血清型3	不明/不明	国内	北
328	12.19	男	70代	ジアルジア症	-	経口感染	国外(カンボジア)	中央
329	12.19	男	80歳以上	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群 T血清型別:型別不能	その他(抗がん剤治療副作用による皮膚症状)	国内	北
330	12.25	女	60代	アメーバ赤痢	腸管アメーバ症	異性間性的接触	国内	兵庫
331	12.26	男	30代	梅毒	早期顕症梅毒Ⅰ期	異性間性的接触	不明	中央
332	12.21	男	50代	梅毒	無症状病原体保有者	不明	不明	須磨
333	12.26	女	5~9歳	百日咳	マクロライド耐性、MLVA型:MT107	不明/4回	国内	垂水
334	12.27	男	60代	侵襲性インフルエンザ菌感染症	荚膜型non-typable	不明/不明	国内	須磨
335	12.28	男	0~4歳	百日咳	-	不明/3回	国内	西
336	12.28	女	0~4歳	百日咳	-	家族内感染(同胞)/3回	国内	西

表6-2 五類（全数把握）感染症発生状況（麻疹・風疹）

令和6年第1週(1/1-7)～第52週(12/23-29)診断分

番号	性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病名	病型	診断方法(検査方法)	症状	推定感染地域
1	男	5-9歳	2024/7/29	2024/8/2	2024/8/3	麻疹	検査診断例(遺伝子型D8)	PCR法による病原体遺伝子の検出	発熱、咳、鼻汁、結膜充血、コプリック斑、発疹、肺炎	国外(イギリス)
2	女	10代	2024/8/6	2024/8/8	2024/8/8	麻疹	検査診断例(遺伝子型D8)	PCR法による病原体遺伝子の検出	発熱、咳、鼻汁、発疹	国内・国外(イギリス)
3	男	10代	2024/8/7	2024/8/8	2024/8/8	麻疹	検査診断例(遺伝子型D8)	PCR法による病原体遺伝子の検出	発熱、咳、鼻汁、発疹	国内・国外(イギリス)

[麻疹]		麻疹		修飾麻疹
年		検査診断例	臨床診断例	検査診断例
H29 (2017)		0	0	0
H30 (2018)		0	0	0
H31/R元 (2019)		41	0	0
R2 (2020)		0	0	0
R3 (2021)		0	0	0
R4 (2022)		1	0	0
R5 (2023)		1	0	0
R6 (2024)		3	0	0



[風疹]		検査診断例	臨床診断例
年			
H29 (2017)		1	0
H30 (2018)		8	1
H31/R元 (2019)		13	0
R2 (2020)		3	0
R3 (2021)		0	0
R4 (2022)		0	0
R5 (2023)		0	0
R6 (2024)		0	0

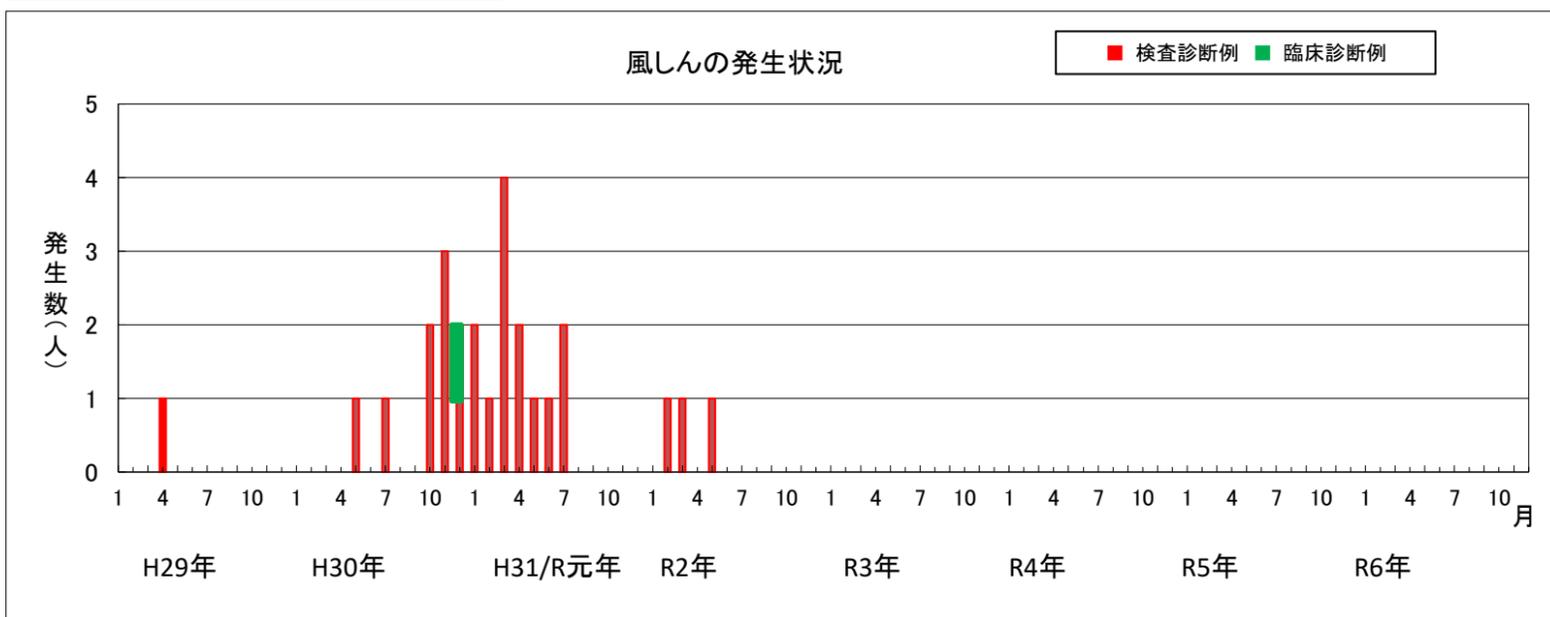


表7 獣医師が届出を行う感染症

令和6年第1週(1/1-7)～第52週(12/23-29)診断分：報告なし

表8 神戸市感染症発生動向調査年報 令和6(2024)年(第1週～52週)

神戸市感染症発生動向調査週報

作成：神戸市感染症情報センター

令和6年1月1日(第1週)

～ 令和6年12月30日(第52週)

インフルエンザ/COVID-19

設置定点数 48ヶ所

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	80歳～
インフルエンザ	1,709	831	915	487	3,209	1,286	1,542	3,191	2,883	16,053	37	153	425	476	567	826	875	1,042	1,219	1,184	1,088	3,949	1,084	602	701	774	562	246	161	82
新型コロナウイルス(COVID-19)	363	598	524	413	1,771	776	935	1,718	1,745	8,843	102	226	319	211	166	163	147	176	170	163	236	1,097	600	676	759	980	947	699	621	385

小児科

設置定点数 31ヶ所

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～
RSウイルス感染症	122	18	139	21	316	15	133	272	120	1,156	76	219	381	272	125	47	19	7	1			3	1	5
咽頭結膜熱	58	40	15	2	216	43	90	145	145	754	4	39	169	116	108	86	59	40	39	31	16	26	7	14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	261	248	310	59	1,625	146	188	692	465	3,994	4	25	173	240	387	469	515	499	394	309	280	559	60	80
感染性胃腸炎	412	126	532	754	3,739	415	1,125	1,517	700	9,320	111	498	1,225	949	907	938	897	776	606	496	384	946	162	425
水痘	29	8	7	6	26	20	38	36	52	222	1	4	6	10	15	12	17	23	24	18	31	52	8	1
手足口病	818	137	567	264	1,661	316	631	1,392	1,074	6,860	31	416	1,696	1,201	956	947	682	380	203	131	79	91	13	34
伝染性紅斑	21	3	7	1	35	9	4	1	17	98			8	10	10	15	20	17	8	4	3	2	1	
突発性発しん	63	12	31	12	65	24	33	65	48	353	6	60	192	59	19	8	6	2			1			
ヘルパンギーナ	63	7	36	8	70	28	44	81	100	437		26	75	72	63	61	63	18	21	9	7	17	1	4
流行性耳下腺炎	12	2	3	3	39	10	2	7	5	83		1	5	4	8	8	12	7	8	12	1	15	1	1

眼科

設置定点数 10ヶ所

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～
急性出血性結膜炎	2							1	10	13								1							6	2	2	2	
流行性角結膜炎	68	23	27	12	35	34	3	20	20	242	1	1	7	5	9	6	5	3	4	1	3	8	9	30	48	40	27	17	18

表9 インフルエンザ・小児科・眼科定点(週報)患者報告数 令和2(2020)年～令和6(2024)年

	R6(2024)年	R5(2023)年	R4(2022)年	R3(2021)年	R2(2020)年
インフルエンザ	16,053	20,144	209	7	5,275
新型コロナウイルス(COVID-19)※	8,843	7,617			
RSウイルス感染症	1,156	1,131	986	2,211	100
咽頭結膜熱	754	1,677	148	221	171
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3,994	2,715	568	564	761
感染性胃腸炎	9,320	8,191	6,392	6,219	3,688
水痘	222	143	95	137	231
手足口病	6,860	842	774	1,153	119
伝染性紅斑	98	16	17	29	148
突発性発しん	353	318	330	436	486
ヘルパンギーナ	437	1,570	104	398	110
流行性耳下腺炎	83	92	45	68	56
合計	48,173	44,456	9,668	11,443	11,145
急性出血性結膜炎	13	7	2	1	6
流行性角結膜炎	242	216	61	60	42
合計	255	223	63	61	48

※ 2023年第19週(5/8-5/14)以降

表10 基幹定点(週報)患者報告数 令和2(2020)年～令和6(2024)年

	R6(2024)年	R5(2023)年	R4(2022)年	R3(2021)年	R2(2020)年
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	1	1	1	0	6
無菌性髄膜炎	10	10	3	1	7
マイコプラズマ肺炎	162	1	0	0	18
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	2	1	0	2
合計	175	14	5	1	33

表11 基幹定点(月報)患者報告数 令和2(2020)年～令和6(2024)年

	R6(2024)年	R5(2023)年	R4(2022)年	R3(2021)年	R2(2020)年
メチリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	128	113	137	131	92
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	1	3	1	1
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	2	6	3	7
合計	131	116	146	135	100

表12-1 性感染症(STD)定点患者報告数 令和2(2020)年～令和6(2024)年

	R6(2024)年	R5(2023)年	R4(2022)年	R3(2021)年	R2(2020)年
性器クラミジア感染症	613	652	363	305	306
性器ヘルペスウイルス感染症	175	167	77	100	131
尖圭コンジローマ	135	121	56	56	53
淋菌感染症	207	244	120	90	102
合計	1,130	1,184	616	551	592

# 表12-2 性感染症（STD）定点患者報告数

令和6(2024)年の疾患別患者報告数

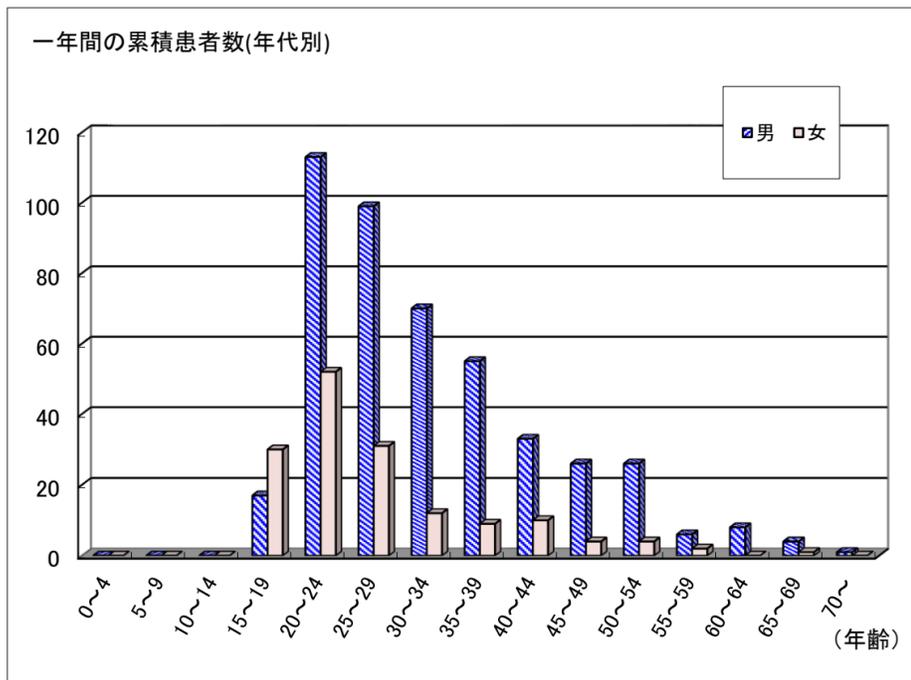
神戸市感染症情報センター

総設置定点数 12ヶ所

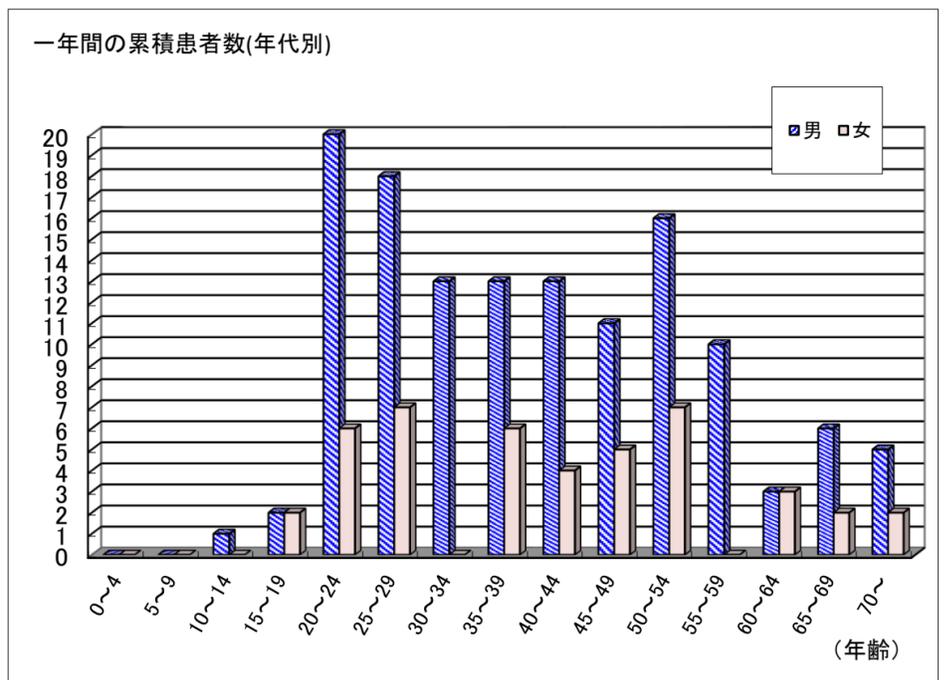
STD定点情報（令和6年患者）	性	患者年齢層															合計
		0~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~	
性器クラミジア感染症	男				17	113	99	70	55	33	26	26	6	8	4	1	458
	女				30	52	31	12	9	10	4	4	2		1		155
性器ヘルペスウイルス感染症	男			1	2	20	18	13	13	13	11	16	10	3	6	5	131
	女				2	6	7		6	4	5	7		3	2	2	44
尖圭コンジローマ	男				4	23	19	13	13	20	8	10	4	7	1	3	125
	女				2	5		1	1			1					10
淋菌感染症	男				15	43	24	21	22	15	12	14	5	7		1	179
	女				10	15	1		1	1							28

## 感染症ごとの年齢別累積患者報告数（令和6年1月～令和6年12月）

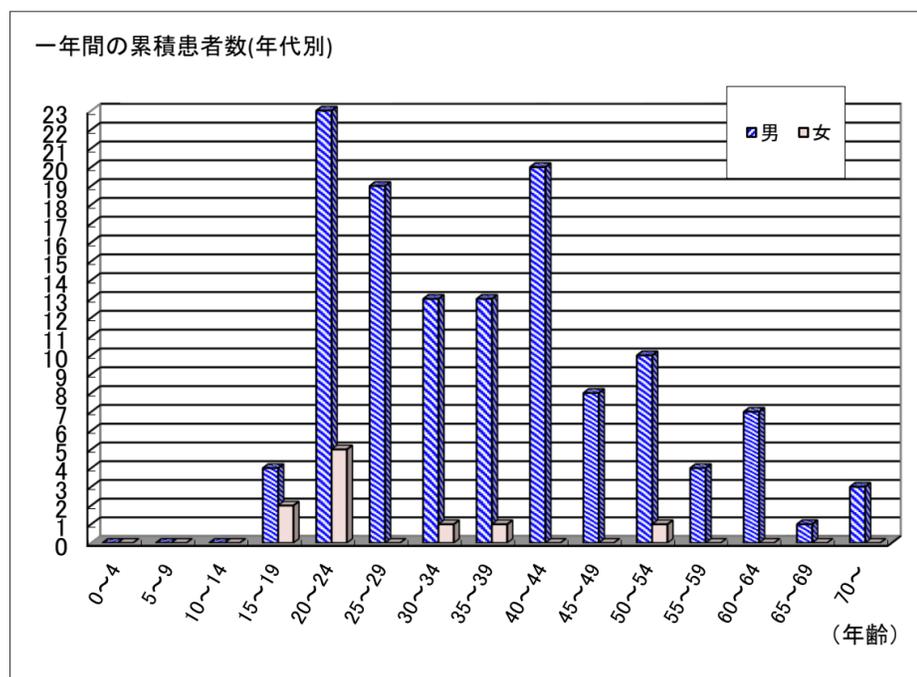
### 1. 性器クラミジア感染症



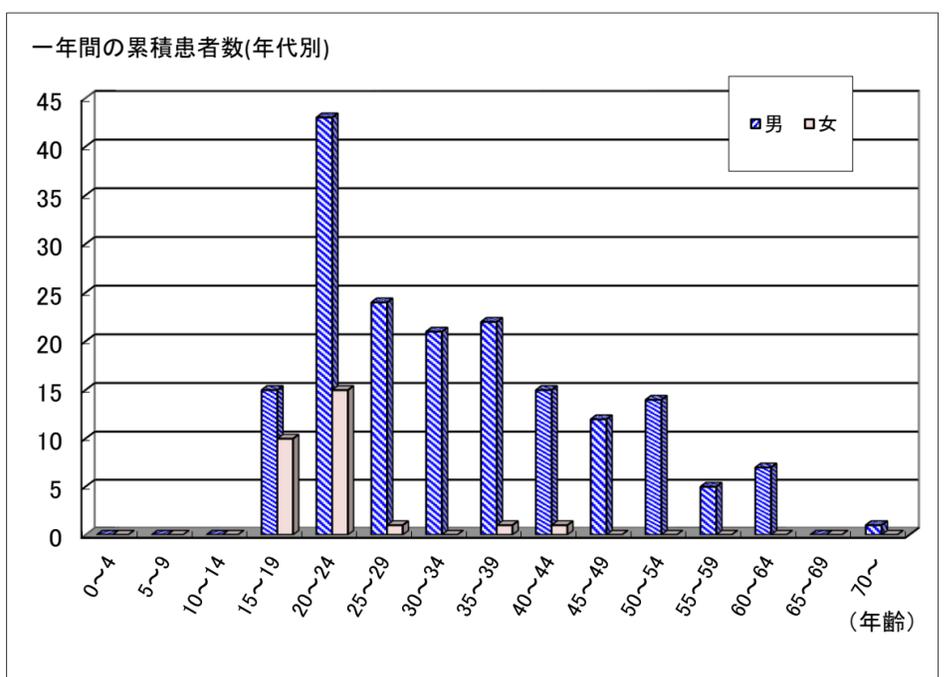
### 2. 性器ヘルペスウイルス感染症



### 3. 尖圭コンジローマ



### 4. 淋菌感染症



## 病原体検出状況報告(病院検査室定点) 平成6年～令和6年

表13 病院検査室定点活動状況

平成6～令和6年

年	設置定点数	総報告数	報告数/月	報告数/定点	報告率
平成6	14	125	10.4	8.9	74.4%
平成7	14	106	8.8	7.6	63.1%
平成8	14	101	8.4	7.2	60.1%
平成9	14	99	8.3	7.1	58.9%
平成10	14	82	6.8	5.9	48.8%
平成11	14	97	8.1	6.9	57.7%
平成12	14	106	8.8	7.6	63.1%
平成13	13	119	9.9	9.2	76.3%
平成14	13	120	10.0	9.2	76.9%
平成15	12	89	7.4	7.4	61.8%
平成16	13	124	10.3	9.5	79.5%
平成17	13	119	9.9	9.2	76.3%
平成18	13	150	12.5	11.5	96.2%
平成19	13	155	12.9	11.9	99.4%
平成20	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成21	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成22	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成23	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成24	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成25	13	155	12.9	11.9	99.4%
平成26	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成27	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成28	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成29	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成30	13	156	13.0	12.0	100.0%
平成31/令和元	13(1月～3月) 14(4月～12月)	39(1月～3月) 126(4月～12月)	13.0(1月～3月) 14.0(4月～12月)	3.0(1月～3月) 9.0(4月～12月)	100.0%
令和2	14	167	13.9	11.9	99.4%
令和3	14	168	14.0	12.0	100.0%
令和4	14(1月～7月) 13(8月～12月)	98(1月～7月) 65(8月～12月)	14.0(1月～7月) 13.0(8月～12月)	7.0(1月～7月) 5.0(8月～12月)	100.0%
令和5	13	156	13.0	12.0	100.0%
令和6	13	156	13.0	12.0	100.0%

## 2024年(令和6年)病原体検出状況報告(病院検査室定点)(表14~25)

表14 便(細菌)

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
エロモナス・ヒドロフィラ	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
エロモナス・ソブリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エロモナス・ヒドロフィラ/ソブリア	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	5
セレウス菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
バチルス・チューリンゲンシス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カンピロバクター・ジェジュニ	10	8	11	15	11	14	18	31	19	22	11	11	181
カンピロバクター・コリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	4	3	1	3	6	3	5	1	2	1	1	1	31
ボツリヌスE型菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボツリヌスE型菌以外	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3
ウエルシュ菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腸管出血性大腸菌	0	0	0	2	0	2	3	4	0	2	3	1	17
腸管病原性大腸菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腸管毒素原性大腸菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腸管侵襲性大腸菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腸管凝集性大腸菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の下痢原性大腸菌	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
プレジオモナス・シゲロイデス	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
チフス菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
パラチフス菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ属菌 O4群	0	1	0	0	2	2	7	12	4	4	0	0	32
サルモネラ属菌 O7群	0	0	1	2	1	1	1	5	7	1	3	0	22
サルモネラ属菌 O8群	0	0	0	0	1	5	2	1	3	1	1	0	14
サルモネラ属菌 O9群	1	0	0	1	2	1	3	1	0	0	2	1	12
サルモネラ属菌 O9, 46群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ属菌 O3, 10群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ属菌 O1, 3, 19群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ属菌 O13群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ属菌 O18群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ属菌 その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
サルモネラ属菌 群不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
志賀赤痢菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フレクシネル赤痢菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボイド赤痢菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ソルネ赤痢菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤痢菌 種不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黄色ブドウ球菌	8	2	8	3	4	8	4	2	5	6	4	5	59
O1エルトールコレラ菌小川型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
O1エルトールコレラ菌稲葉型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
O139コレラ菌CT陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コレラ菌 上記以外	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
ビブリオ・フルビアリス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ビブリオ・ミミカス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
エルシニア・エンテロコリチカ	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	3
仮性結核菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陽性数	25	14	21	28	32	37	44	60	42	42	27	19	391
検査件数	312	298	311	323	304	373	372	420	390	373	338	336	4150

表15 便(ウイルス)

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アデノウイルス40/41	2	0	0	2	1	1	0	0	0	5	0	3	14
ノロウイルスG I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルスG II	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス群不明	44	40	9	3	4	2	1	2	0	1	0	11	117
ロタウイルス	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	4	8
陽性数	47	40	9	8	5	3	1	2	0	6	0	18	139
検査件数	249	324	183	129	131	151	97	118	104	124	123	129	1862

表16 便(原虫)

原虫名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
赤痢アメーバ	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	3
ランブル鞭毛虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クリプトスポリジウム・パルバム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陽性数	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	3
検査件数	6	4	1	6	3	3	2	4	2	4	1	2	38

表17 穿刺液(胸水, 腹水, 関節液など)

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
嫌気性菌	28	24	28	29	23	22	27	27	25	27	28	19	307
大腸菌	26	23	36	33	20	26	25	32	47	36	29	19	352
インフルエンザ菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エンテロバクター属菌	5	9	5	9	9	10	11	11	9	9	4	8	99
肺炎桿菌	11	9	19	12	8	13	13	18	22	27	13	16	181
クレブシエラ・アエロゲネス	1	3	3	2	1	5	1	6	3	4	4	3	36
抗酸菌	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
肺炎マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
髄膜炎菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緑膿菌	3	11	2	8	3	7	6	7	4	5	12	9	77
黄色ブドウ球菌	10	9	12	11	13	10	8	14	20	15	11	12	145
コアグラウゼ陰性ブドウ球菌	7	9	2	9	7	14	8	4	9	4	6	2	81
肺炎レンサ球菌	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
陽性数	92	97	108	113	84	107	100	120	140	127	107	88	1283
検査件数	403	400	427	432	435	395	360	410	384	458	370	396	4870

表18 髄液

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
大腸菌	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
インフルエンザ菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リステリア・モノサイトゲネス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
髄膜炎菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黄色ブドウ球菌	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	4
B群レンサ球菌	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	4
肺炎レンサ球菌	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	4
陽性数	1	1	1	1	2	0	3	0	0	2	0	4	15
検査件数	187	151	159	138	167	160	164	135	130	171	139	186	1887

表19 咽頭および鼻咽頭からの材料

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
百日咳菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ジフテリア菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
インフルエンザ菌	15	8	20	19	22	16	14	9	9	6	10	8	156
髄膜炎菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群レンサ球菌	10	7	6	4	11	4	7	4	4	5	5	4	71
肺炎レンサ球菌	9	6	7	12	19	12	11	7	2	8	10	5	108
陽性数	34	21	33	35	52	32	32	20	15	19	25	17	335
検査件数	568	612	591	638	749	655	713	592	484	627	617	596	7442

表20 尿

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アシネトバクター属菌	2	0	2	6	0	3	2	2	7	2	3	4	33
カンジダ・アルビカンス	46	64	75	88	70	56	76	78	74	57	70	76	830
エンテロバクター属菌	28	21	26	31	28	37	36	30	40	47	35	36	395
エンテロコッカス属菌	332	329	322	326	302	283	307	327	299	318	305	350	3800
大腸菌	596	544	621	583	615	587	618	623	558	590	563	620	7118
肺炎桿菌	160	143	137	137	137	150	170	144	168	200	169	186	1901
クレブシエラ・アエロゲネス	17	12	12	14	14	18	21	32	18	25	17	22	222
緑膿菌	78	69	99	71	83	71	93	81	106	110	132	116	1109
黄色ブドウ球菌	79	54	70	62	56	57	86	67	85	66	47	75	804
コアグラウゼ陰性ブドウ球菌	219	196	209	208	207	218	269	223	197	218	195	213	2572
陽性数	1557	1432	1573	1526	1512	1480	1678	1607	1552	1633	1536	1698	18784
検査件数	3130	2801	2948	2918	3032	2836	3117	2978	2780	2908	2740	3315	35503

表21 血液

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
嫌気性菌	33	39	29	33	29	38	17	10	19	9	25	46	327
大腸菌	126	135	180	138	150	158	150	148	157	182	173	137	1834
エンテロバクター属菌	9	9	8	8	14	12	7	11	15	12	21	22	148
インフルエンザ菌	2	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	12
肺炎桿菌	47	41	46	64	36	41	44	54	66	75	73	52	639
クレブシエラ・アエロゲネス	4	2	9	5	5	4	2	7	7	5	13	6	69
リステリア・モノサイトゲネス	2	1	0	0	0	0	5	0	0	0	0	2	10
髄膜炎菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マラリア原虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緑膿菌	15	14	12	10	15	16	19	17	21	10	18	11	178
チフス菌	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
バラチフス菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ属菌	0	1	0	1	0	2	4	2	3	3	0	0	16
黄色ブドウ球菌	64	85	72	60	72	62	54	82	51	57	85	97	841
コアグラウゼ陰性ブドウ球菌	115	112	89	103	108	126	123	107	71	123	93	104	1274
B群レンサ球菌	11	3	3	11	10	12	5	3	4	14	8	13	97
肺炎レンサ球菌	8	5	4	7	4	1	1	1	1	1	5	16	54
陽性数	436	448	452	441	444	473	432	442	415	491	514	512	5500
検査件数	7930	7103	7534	7489	7735	7487	6206	5309	4739	6565	6510	8141	82748

表22 喀痰, 気管吸引液および下気道からの材料

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
嫌気性菌	36	49	27	47	65	57	80	97	45	46	58	39	646
インフルエンザ菌	87	51	39	53	82	80	81	64	40	43	62	78	760
肺炎桿菌	145	102	102	106	112	111	125	156	131	105	110	110	1415
レジオネラ・ニューモフィラ	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	5
結核菌	29	22	24	22	31	18	35	54	34	3	53	36	361
肺炎マイコプラズマ	0	0	1	1	3	2	15	21	13	31	33	13	133
緑膿菌	126	122	113	128	151	128	144	140	122	136	147	136	1593
黄色ブドウ球菌	300	258	284	265	273	224	255	280	238	226	312	372	3287
A群レンサ球菌	1	4	5	3	6	5	2	4	1	2	2	0	35
B群レンサ球菌	27	21	26	34	18	17	20	22	20	12	22	31	270
肺炎レンサ球菌	28	26	26	27	39	40	22	29	29	28	37	37	368
陽性数	779	656	647	686	780	684	781	867	673	632	836	852	8873
検査件数	2376	2425	2554	2730	2919	2697	3080	2770	2415	2419	2896	2918	32199

表23 尿道または子宮頸管擦過(分泌)物

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
カンジダ・アルビカンス	41	45	47	36	43	47	35	45	32	45	40	29	485
クラミジア・トラコモマーティス	3	4	3	2	6	5	6	6	4	5	5	4	53
淋菌	0	1	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	5
B群レンサ球菌	53	48	53	43	47	37	57	60	52	63	47	47	607
腔トリコモナス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ウレアプラズマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陽性数	97	98	103	81	96	89	100	111	90	114	92	80	1151
検査件数	600	616	611	583	636	614	641	567	553	677	565	519	7182

表24 検出された黄色ブドウ球菌の内訳

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
大便													
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	6	1	8	2	4	4	3	1	4	6	3	3	45
メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	2	1	0	1	0	4	1	1	1	0	1	2	14
メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	8	2	8	3	4	8	4	2	5	6	4	5	59
穿刺													
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	4	2	4	4	3	3	1	4	6	3	6	4	44
メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	6	7	8	7	10	7	7	10	14	12	5	8	101
メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	10	9	12	11	13	10	8	14	20	15	11	12	145
髄液													
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	4
尿													
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	35	21	18	22	18	21	33	22	26	26	17	30	289
メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	44	33	52	40	38	36	53	45	59	40	27	45	512
メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	79	54	70	62	56	57	86	67	85	66	47	75	804
血液													
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	21	29	32	23	22	25	18	39	22	18	20	37	306
メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	43	56	40	37	50	37	36	43	29	39	64	60	534
メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	64	85	72	60	72	62	54	82	51	57	85	97	841
喀痰													
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	135	123	145	144	146	121	152	131	135	126	161	170	1689
メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	165	135	139	121	127	103	103	149	101	100	149	202	1594
メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	300	258	284	265	273	224	255	280	238	226	312	372	3287
合計													
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	198	176	207	195	193	174	209	197	193	179	207	244	2372
メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	257	232	239	206	225	187	201	248	204	191	245	318	2753
メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	455	408	446	401	418	361	410	445	397	370	452	562	5125

表25 腸管出血性大腸菌の検出

No	検体採取日	血清型	VT型	臨床症状
1	2024年4月11日	O111	VT1/VT2	発熱, 血便
2	2024年4月30日	O111	VT1/VT2	発熱, 血便
3	2024年6月6日	O157	VT1/VT2	全腹部痛、下血 虚血性腸炎
4	2024年6月27日	O157	VT1/VT2	発熱
5	2024年7月2日	O157	VT1/VT2	腹痛、血便
6	2024年7月25日	O157	VT1/VT2	発熱、腹痛、下痢
7	2024年7月26日	O157	VT1	下痢、血便
8	2024年8月18日	O157	VT1/VT2	腹痛、下痢
9	2024年8月22日	O157	VT1/VT2	発熱、腹痛、下痢
10	2024年8月23日	O157	VT1/VT2	発熱, 血便
11	2024年8月27日	O157	VT1/VT2	腹痛、血便
12	2024年10月2日	O157	VT2	血便、HUS
13	2024年10月20日	不明	VT2	下痢、血便
		(O抗原遺伝子型OgGp5)		
14	2024年11月2日	O157	VT1/VT2	下痢・嘔吐
15	2024年11月23日	O157	VT1/VT2	発熱、下痢、嘔吐
16	2024年11月24日	O157	VT1/VT2	血便
17	2024年12月17日	O26	VT1	腹痛

## 2024年(令和6年)病原体検出状況報告(健康科学研究所実施分)(表26～29)

表26 2024年 STD(定点)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
淋菌	耐性菌 (PCG)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	低感受性菌 (CFIX)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	陽性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	検査検体数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1
クラミジア・トラコモナス	陽性数	1	0	0	1	1	0	1	1	0	0	1	0	6
	検査検体数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12

表27 2024年 食中毒以外の細菌検査

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
ダニ 媒介性	紅斑熱群リケッチア						2		2	2				6	
その他臨床	レジオネラ属菌	3	2	1	1	2	1	3		2		1	1	17	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2			1	1	5		1		1	4	5	20	
	侵襲性肺炎球菌	3	2	4	3	4	2	1	1	1	1	4	6	32	
	侵襲性インフルエンザ菌	1		1		1	1	1				1	2	8	
	劇症型溶血性レンサ球菌	2		2	5	4	2		4	1	3		2	25	
	百日咳							2						1	3

注) 数字は陽性数を示す

表28 2024年 ウイルス検出状況

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
コクサッキーウイルスA群5型								1	1	2			4
コクサッキーウイルスA群6型	1	1	1	3	1	4	11	2					24
コクサッキーウイルスA群10型									3	1			4
コクサッキーウイルスA群16型					1	1	12	3	3	6			26
コクサッキーウイルスB群2型									1				1
コクサッキーウイルスB群3型								1			3		4
エンテロウイルスA群71型								1	1				2
エンテロウイルスD群68型									1				1
エコーウイルス11型			1					1	1	5	1		9
ライノウイルス	1			5	3	5	8	2	4	4	4	9	45
パレコウイルス1型							1			1			2
A型インフルエンザウイルス (H1pdm09亜型)	8	1	1	3	1		4	2	1	4	12	53	90
A型インフルエンザウイルス (H3亜型)	10	2	1	1						1	1	1	17
B型インフルエンザウイルス (ビクトリア系統)	15	24	10	10					1			4	64
パラインフルエンザウイルス1型						1	1	1					3
パラインフルエンザウイルス2型								1					1
パラインフルエンザウイルス3型				1	3	3							7
パラインフルエンザウイルス4型											1		1
RSウイルス		1	2	12	5	2	5		1	2		1	31
ヒトメタニューモウイルス	1		4	2				1				1	9
ヒトコロナウイルス229E			1										1
ヒトコロナウイルスNL63		1	3								1		5
ヒトコロナウイルスOC43	1											3	4
ヒトコロナウイルスHKU1				1									1
新型コロナウイルス	8	10	9	5		2	7	6	3		2	2	54
麻疹ウイルス								9					9
ノロウイルスGI	1												1
ノロウイルスGII	3	2	2										7
アデノウイルス1型							1						1
アデノウイルス2型		2	1		1								4
アデノウイルス3型	3	2	2	2	1	1		1					12
アデノウイルス4型											1		1
アデノウイルス14型					2								2
アデノウイルス54型							1		1				2
アデノウイルス108型							1		1	1		1	4
アデノウイルス (型不明)								1					1
ヒトヘルペスウイルス6型			1						1				2
ヒトボカウイルス				1	2	1	1						5
水痘帯状疱疹ウイルス									3				3
陽性検体数	52	46	39	46	20	20	53	33	27	27	26	75	464
検体数	55	46	59	46	21	16	51	45	32	32	48	75	526
(うち複数検出された検体数)	2	1	2	3	5	5	7	1	4	2	2	12	46

表29 2024年 疾患別ウイルス検出件数

(集団嘔吐下痢症および、インフルエンザ、新型コロナウイルスをのぞく)

診断名	検出ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RSウイルス感染症	ライノウイルス				1		1					1		3
	パレコウイルス1型							1						1
	パラインフルエンザウイルス2型								1					1
	パラインフルエンザウイルス3型					1								1
	パラインフルエンザウイルス4型											1		1
	RSウイルス		1	2	12	3	2	3		1	1		1	26
	ヒトコロナウイルスNL63			1										1
	ヒトコロナウイルスOC43												1	1
	ヒトコロナウイルスHKU1				1									1
ヒトボカウイルス				1									1	
咽頭結膜熱	アデノウイルス2型		2			1								3
	アデノウイルス3型	3		1	2	1	1		1					9
	アデノウイルス4型											1		1
	アデノウイルス54型							1						1
	アデノウイルス108型							1			1		1	3
	アデノウイルス(型不明)								1					1
	ヒトコロナウイルスNL63											1		1
感染性胃腸炎	コクサッキーウイルスA群5型										1			1
	ノロウイルスGI	1												1
	ノロウイルスGII	3	2	2										7
手足口病	アデノウイルス2型			1										1
	アデノウイルス54型									1				1
	コクサッキーウイルスA群5型								1					1
	コクサッキーウイルスA群6型	1	1	1	2	1	3	8	2					19
	コクサッキーウイルスA群10型									3		1		4
	コクサッキーウイルスA群16型					1	1	11	3	3	5			24
	コクサッキーウイルスB群3型											3		3
	エンテロウイルスA群71型								1	1				2
	ライノウイルス				1	1	2	6	1	2	1	1		15
	パラインフルエンザウイルス1型								1					1
	パラインフルエンザウイルス3型						1							1
	ヒトメタニューモウイルス			1						1				2
ヒトボカウイルス						1	1						2	
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルスA群10型										1			1
	コクサッキーウイルスB群3型											3		3
	ライノウイルス											1		1
突発性発疹	コクサッキーウイルスA6型				1									1
	ライノウイルス				1									1
無菌性髄膜炎	コクサッキーウイルスA群6型							3						3
	コクサッキーウイルスA群16型							1			1			2
	コクサッキーウイルスB群2型									1				1
	エコーウイルス11型								1	1	4	1		7
	ライノウイルス				2			1						3
	ヒトヘルペスウイルス6型										1			1
水痘	水痘帯状疱疹ウイルス									3				3
急性脳症	アデノウイルス14型					2								2
麻疹ん疑い	麻疹ウイルス								9					9
上気道炎	コクサッキーウイルスA群5型										1			1
	コクサッキーウイルスA群6型						1							1
	コクサッキーウイルスB群3型								1					1
	エンテロウイルスD群68型									1				1
	ライノウイルス					1	2		1		1		2	7
	パレコウイルス1型										1			1
	パラインフルエンザウイルス3型				1									1
	RSウイルス					1								1
	ヒトメタニューモウイルス												1	1
	ヒトコロナウイルス229E			1										1
	ヒトコロナウイルスNL63			1										1
ヒトコロナウイルスOC43	1											2	3	
ヒトボカウイルス								1					1	
下気道炎	コクサッキーウイルスA群5型										1			1
	ライノウイルス					1					1			2
	パラインフルエンザウイルス3型					2	1							3
	RSウイルス					1					1			2
	ヒトコロナウイルスNL63			1										1
	アデノウイルス3型			1										1
	ヒトボカウイルス					1								1
合計検出数		9	6	13	25	19	16	37	25	18	21	14	8	211

# 神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

## <報告> 病原体検出状況(病院検査室定点) 2023年(令和5年)

神戸市では感染症発生動向調査事業実施要綱に定められている病原体定点(健康科学研究所で検査を実施)に加え、より多くの情報を収集・分析するため、独自に「病院検査室定点」を設置している。

2023年は13病院を設置し、毎月検査室で検査した検体について、検体種別ごとの検査件数と検出した病原体に関する情報を報告いただいた。

今号では、2023年(報告数156件)の病原体検出状況について報告する。

新型コロナウイルス感染症は2023年5月8日から五類感染症に移行したが、2022年と同様に感染予防対策及び個人の感染予防行動が他の感染症への予防にもつながっており、検出状況に大きく影響を与えていると考えられる。今回の報告では、新型コロナウイルスについては省略する。

### 【糞便】(図1、表1~4)

3,913件中313件から細菌性の病原体が検出され(検出率8.0%)、その内訳はカンピロバクター属菌54.7%(昨年は65.6%)、黄色ブドウ球菌20.9%(昨年は14.8%)、サルモネラ属菌14.1%(昨年は13.7%)、腸管出血性大腸菌5.1%(昨年は2.1%)となっている。カンピロバクター属菌の内、86.4%はカンピロバクター・ジェジュニであった。サルモネラ属菌の血清型はO4群が最も多く、続いてO8群、O7群、O9群

であった。腸管出血性大腸菌は16件で、2019年17件、2020年11件、2021年7件、2022年9件となっている。血清型はO157が14件(毒素型:VT1;1件、VT2;12件、VT1/VT2;1件)、O103が1件(毒素型:VT1)、不明1件(毒素型:VT1)であった(3頁表1参照)。

ウイルスは、1,474件中87件から検出され(検出率5.9%)、その内訳はノロウイルス77.0%、アデノウイルス40/41型13.8%、ロタウイルス9.2%であった。検出率は2017年以降十数%で推移していたが、2020年以降半減した。検出内訳は、昨年と比較してノロウイルスは増加(昨年は45.1%)し、アデノウイルスは減少(昨年は44.0%)した。

原虫は、赤痢アメーバが1件検出された。

### 【穿刺液】(図2、表5)

5,142件中1,278件から細菌性の病原体が検出され(検出率24.9%)、その内訳は嫌気性菌27.2%、大腸菌24.8%、肺炎桿菌13.3%、黄色ブドウ球菌11.0%であり、昨年とほぼ同様の割合であった。

### 【髄液】(表6)

1,799件中10件から病原体が検出され(検出率0.6%)、その内訳は大腸菌4件、黄色ブドウ球菌2件、肺炎レンサ球菌2件、インフルエンザ菌1件、リステリア・モノサイトゲネス1件であった。

基礎疾患を持つ患者で肺炎桿菌が検出され

た1名と溶血性連鎖球菌が検出された1名が亡くなっている。

#### 【咽頭及び鼻咽頭】(図3、表7)

7,466 件中 362 件から細菌性の病原体が検出され(検出率 4.8%)、2017 年当時 10%前後であった検出率が 2020 年以降大きく減少している。その内訳は、インフルエンザ菌 58.6%、肺炎レンサ球菌 24.6%、A 群レンサ球菌 16.9%であった。2020 年まではインフルエンザ菌の検出の割合が一番高かったが、2021 年と2022 年は肺炎レンサ球菌の検出が過半数を占めるようになり、2023 年は再びインフルエンザ菌の割合が一番高くなった。

細菌性の病原体の検出率が大きく減少した原因として、新型コロナウイルスへの感染予防対策を講じることにより、同じ感染経路を持つ他の病原体の感染対策に効果があったと考えられる。

#### 【尿】(図4、表8)

34,887 件中 18,061 件から病原体が検出され(検出率 51.8%)、その内訳は大腸菌 39.2%、エンテロコッカス属菌 20.1%、コアグラージェ陰性ブドウ球菌 14.0%であった。

#### 【血液】(図5、表9)

86,656 件中 5,398 件から病原体が検出され(検出率 6.2%)、その内訳は大腸菌 34.0%、コアグラージェ陰性ブドウ球菌 25.4%、黄色ブドウ球菌 14.1%、肺炎桿菌 10.4%であった。人獣共通感染症であり、食品媒介感染症として知られているリステリア・モノサイトゲネス<sup>1)</sup>は、12 件検出された。

#### 【喀痰、気管吸引液および下気道からの材料】

(図6、表 10)

29,058 件中 7,863 件から細菌性の病原体が検出された(検出率 27.1%)。その内訳は黄色ブドウ球菌 39.4%、緑膿菌 19.1%、肺炎桿菌 16.2%で、2022 年と同様の検出状況であった。レジオネラ・ニューモフィラが3月に2件、8月に

1件検出された。

#### 【尿道または子宮頸管擦過(分泌)物】

(図7、表 11)

7,097 件中 1,182 件から病原体が検出され(検出率 16.7%)、その内訳は B 群レンサ球菌 53.2%、カンジダ・アルビカンス 41.2%であった。ここ数年にわたって、この2菌種の割合が高くなっている。

#### 【検出された黄色ブドウ球菌の内訳】(表 12)

検出された黄色ブドウ球菌 4,859 件中、MRSA は 2,208 件検出された(検出率 25.4%)。2010 年に初めて MRSA の割合が 70%を下回り、その後は低下傾向にあったが、ここ数年変化はない。検体別での MRSA の占める割合は、大便 52.3%、喀痰 50.4%、尿 38.0%、血液 34.6%、穿刺 33.8%であった。また、検出された MRSA 2,208 件の検体内訳は喀痰 1,561 件(70.7%)、尿 302 件(13.7%)、血液 263 件(11.9%)であり、喀痰からの検出が7割を占めた

#### 参考文献

1) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohana-shi/525-l-monocytogenes.html>

神戸市健康科学研究所  
都倉 亮道

表 1 2023 年腸管出血性大腸菌の検出

No	検体採取日	血清型	VT 型	臨床症状
1	2023 年 5 月 10 日		VT1	水様性下痢、嘔吐
2	2023 年 5 月 14 日	O103	VT1	血便、水様性下痢
3	2023 年 6 月 3 日	O157	VT2	血便、吐気
4	2023 年 6 月 30 日	O157	VT1	発熱、血便
5	2023 年 7 月 9 日	O157	VT2	発熱、血便
6	2023 年 7 月 9 日	O157	VT2	発熱、血便
7	2023 年 7 月 14 日	O157	VT2	下痢、血便、HUS
8	2023 年 7 月 18 日	O157	VT2	下血、腹痛、下痢
9	2023 年 7 月 21 日	O157	VT2	発熱、下痢、血便
10	2023 年 8 月 16 日	O157	VT2	発熱、血便
11	2023 年 8 月 19 日	O157	VT2	腹痛、下痢
12	2023 年 8 月 21 日	O157	VT2	腹痛、血便
13	2023 年 8 月 24 日	O157	VT2	下痢、嘔吐
14	2023 年 8 月 28 日	O157	VT2	腹痛
15	2023 年 8 月 28 日	O157	VT2	下痢、腹痛
16	2023 年 9 月 14 日	O157	VT1/VT2	発熱、血便、HUS

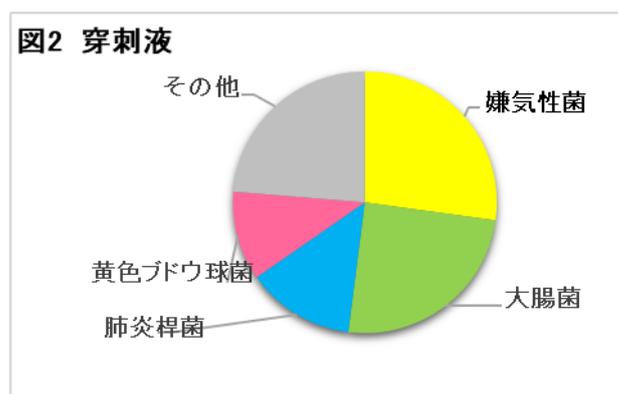
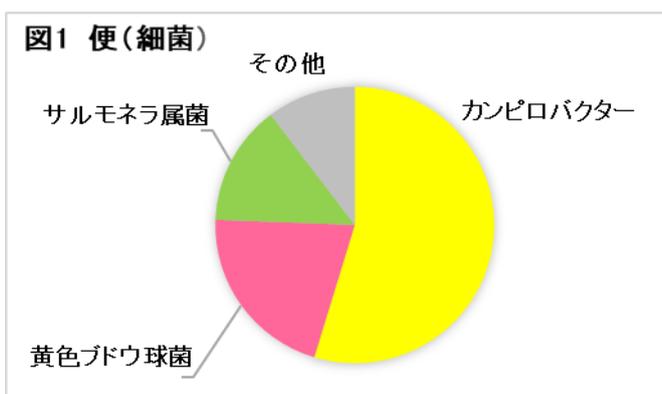


図3 咽頭及び鼻咽頭

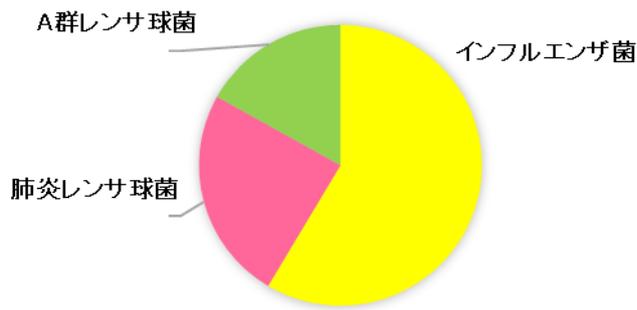


図4 尿

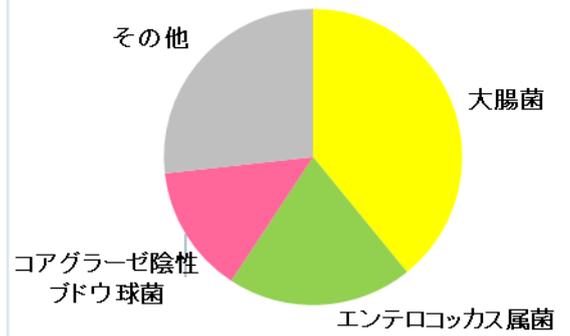


図5 血液

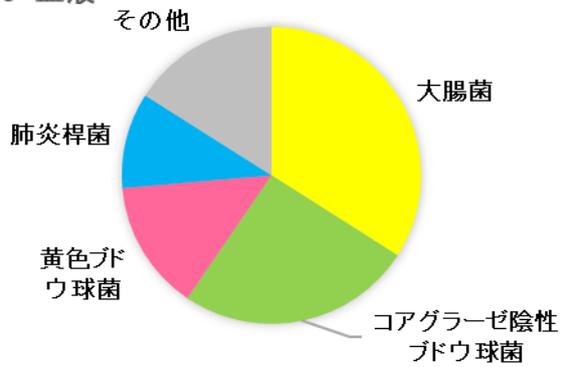


図6 下気道

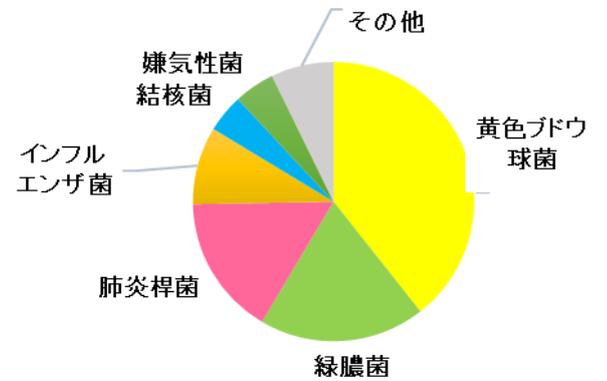
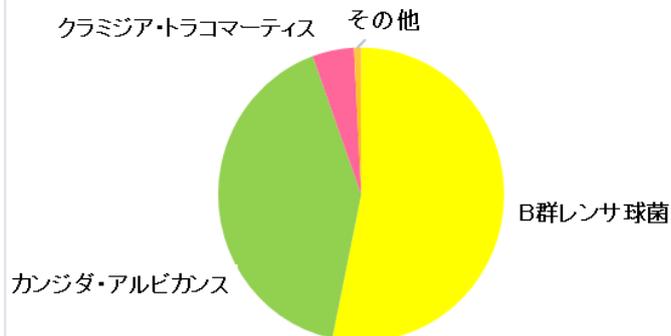


図7 尿道または子宮頸管擦過物



2023年(令和5年)病原体検出状況報告(病院検査室定点)(表2~12)

表2 便(細菌)

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
エロモナス・ヒドロフィラ	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	4
エロモナス・ソブリア	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
エロモナス・ヒドロフィラ/ソブリア	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	2	6
セレウス菌	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
カンピロバクター・ジェジュニ	9	8	17	9	14	19	15	16	15	6	10	9	147
カンピロバクター・コリ	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3
カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	2	1	0	2	3	2	1	2	3	2	1	1	20
ポツリヌスW型菌以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	2	2	5	6	1	0	0	0	16
その他の下痢原性大腸菌	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	4
プレジオモナス・シゲロイデス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ属菌 O4群	0	0	1	0	1	1	3	5	6	4	1	0	22
サルモネラ属菌 O7群	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	7
サルモネラ属菌 O8群	0	0	0	1	0	0	2	3	1	1	0	0	8
サルモネラ属菌 O9群	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	5
サルモネラ属菌 その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
サルモネラ属菌 群不明	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
黄色ブドウ球菌	6	5	5	5	3	3	7	6	10	8	5	2	65
エルシニア・エンテロコリチカ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
エルシニア・シュードツベルクロシス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陽性数	18	15	23	21	27	27	37	42	39	28	20	16	313
検査件数	334	309	363	300	329	353	379	342	272	329	295	308	3913

表3 便(ウイルス)

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アデノウイルス40/41	2	1	1	1	0	1	0	0	1	3	2	0	12
ノロウイルスGⅡ	2	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
ノロウイルス群不明	10	6	22	4	2	0	0	0	0	1	4	6	55
ロタウイルス	5	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	8
陽性数	19	17	23	6	2	1	1	0	1	4	6	7	87
検査件数	121	167	222	109	145	118	85	88	80	103	103	133	1474

表4 便(原虫)

原虫名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
赤痢アメーバ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ランブル鞭毛虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陽性数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
検査件数	5	1	6	3	3	2	2	5	1	7	3	3	41

表5 穿刺液(胸水, 腹水, 関節液など)

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
嫌気性菌	18	33	49	19	25	25	33	21	34	24	33	34	348
大腸菌	21	22	23	19	30	29	30	29	29	29	23	33	317
エンテロバクター属菌	6	5	2	10	9	7	18	19	8	13	4	17	118
肺炎桿菌	12	10	22	8	12	13	11	17	12	20	11	22	170
クレブシエラ・アエロゲネス	0	3	2	4	1	0	2	3	1	4	0	4	24
抗酸菌	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	4
肺炎マイコプラズマ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
緑膿菌	1	3	7	6	6	1	6	15	15	4	7	10	81
黄色ブドウ球菌	6	4	7	13	17	4	9	18	21	11	13	18	141
コアグラールゼ陰性ブドウ球菌	5	4	8	5	0	5	8	10	7	6	10	3	71
肺炎レンサ球菌	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
陽性数	71	84	120	85	100	85	117	132	127	114	101	142	1278
検査件数	409	379	399	399	429	413	442	447	462	496	384	483	5142

表6 髄液

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
大腸菌	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
インフルエンザ菌	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
リステリア・モノサイトゲネス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
黄色ブドウ球菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
B群レンサ球菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肺炎レンサ球菌	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
クリプトコックス・ネオフォルマンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陽性数	3	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3	10
検査件数	132	143	117	123	167	184	190	98	107	164	189	185	1799

表7 咽頭および鼻咽頭からの材料

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ菌	6	11	12	18	35	23	23	14	9	8	24	29	212
A群レンサ球菌	1	1	4	5	3	3	6	6	3	8	5	16	61
肺炎レンサ球菌	5	2	7	3	13	17	8	4	7	7	8	8	89
陽性数	12	14	23	26	51	43	37	24	19	23	37	53	362
検査件数	519	485	617	565	654	736	670	768	624	589	617	622	7466

表8 尿

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アシネトバクター属菌	3	1	3	4	0	2	2	3	3	2	7	3	33
カンジダ・アルビカンス	67	65	98	71	62	50	63	82	52	57	51	55	773
エンテロバクター属菌	27	25	28	20	15	23	36	36	22	27	35	34	328
エンテロコッカス属菌	268	285	348	264	282	276	295	348	279	328	332	326	3631
大腸菌	626	524	600	488	604	605	623	694	604	560	550	596	7074
肺炎桿菌	119	104	126	117	129	116	146	130	143	178	199	165	1672
クレブシエラ・アエロゲネス	17	17	14	6	8	7	13	18	13	17	23	12	165
緑膿菌	90	83	84	76	79	80	97	94	101	102	97	88	1071
黄色ブドウ球菌	70	79	63	55	86	57	68	59	61	55	65	72	790
コアグラールゼ陰性ブドウ球菌	204	179	229	166	193	216	233	223	236	223	212	210	2524
陽性数	1491	1362	1593	1267	1458	1432	1576	1687	1514	1549	1571	1561	18061
検査件数	2986	2674	2912	2482	2866	2908	3065	3291	2819	2971	2899	3014	34887

表9 血液

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
嫌気性菌	26	28	27	30	27	38	30	38	32	26	25	36	363
大腸菌	159	134	145	158	135	187	158	187	156	143	125	150	1837
エンテロバクター属菌	2	3	5	10	9	7	22	16	13	15	9	6	117
インフルエンザ菌	2	3	4	0	2	2	1	1	1	1	0	3	20
肺炎桿菌	34	44	46	38	47	38	47	72	45	55	53	42	561
クレブシエラ・アエロゲネス	1	4	8	2	6	1	5	5	4	5	6	9	56
リステリア・モノサイトゲネス	1	0	0	1	3	0	2	0	0	3	1	1	12
髄膜炎菌	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
緑膿菌	13	4	13	11	6	13	22	19	15	8	16	10	150
チフス菌	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
サルモネラ属菌	0	0	0	0	0	3	2	3	3	1	1	0	13
黄色ブドウ球菌	71	65	61	55	48	61	57	81	57	75	63	67	761
コアグラールゼ陰性ブドウ球菌	124	105	106	77	120	97	145	170	131	116	85	96	1372
B群レンサ球菌	8	5	8	7	5	13	11	8	8	2	11	3	89
肺炎レンサ球菌	8	0	5	0	7	2	0	1	1	7	4	9	44
クリプトコックス・ネオフォルマンズ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陽性数	449	395	428	389	415	462	505	601	466	457	399	432	5398
検査件数	6986	6251	6884	6324	7122	7458	7854	8414	7543	7452	6925	7443	86656

表10 喀痰、気管吸引液および下気道からの材料

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
嫌気性菌	25	18	20	23	32	40	27	25	34	48	64	15	371
インフルエンザ菌	48	37	71	51	67	67	55	69	51	58	58	74	706
肺炎桿菌	108	82	67	79	87	87	107	136	120	148	110	142	1273
レジオネラ・ニューモフィラ	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
結核菌	22	19	29	41	33	23	34	13	41	34	29	29	347
肺炎マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
緑膿菌	112	86	111	84	121	124	137	182	136	143	129	136	1501
黄色ブドウ球菌	318	256	259	215	217	254	247	259	250	263	263	299	3100
A群レンサ球菌	1	1	2	1	1	0	1	2	2	3	5	10	29
B群レンサ球菌	33	18	18	11	18	15	23	19	23	14	17	34	243
肺炎レンサ球菌	35	22	23	25	23	21	25	26	15	20	28	26	289
陽性数	702	539	602	530	599	631	656	732	672	732	703	765	7863
検査件数	2214	2134	2102	2093	2476	2466	2654	2712	2371	2682	2451	2703	29058

表11 尿道または子宮頸管擦過(分泌)物

菌種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
カンジダ・アルビカンス	37	31	41	40	36	51	36	52	36	43	54	30	487
クラミジア・トラコマーティス	3	9	3	3	3	7	3	4	3	6	8	4	56
淋菌	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	5
B群レンサ球菌	75	51	53	46	44	61	60	67	52	45	40	35	629
腔トリコモナス	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	1	5
陽性数	115	91	97	89	83	120	99	123	93	97	103	72	1182
検査件数	552	597	668	560	594	650	594	633	442	574	638	595	7097

表12 検出された黄色ブドウ球菌の内訳

菌種名		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
大便	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	2	4	3	2	1	1	1	5	5	5	4	1	34
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	4	1	2	3	2	2	6	1	5	3	1	1	31
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	6	5	5	5	3	3	7	6	10	8	5	2	65
穿刺	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	3	2	2	2	3	1	2	8	6	4	4	11	48
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	3	2	5	11	14	3	7	10	15	7	9	7	93
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	7	4	7	13	17	4	9	18	21	11	13	18	142
髄液	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
尿	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	28	31	24	22	22	21	19	26	20	28	31	30	302
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	42	48	39	33	64	36	49	33	41	27	34	42	488
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	74	79	63	55	86	57	68	59	61	55	65	72	794
血液	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	21	17	20	21	17	23	12	31	26	32	25	18	263
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	50	48	41	34	31	38	45	50	31	43	38	49	498
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	71	65	61	55	48	61	57	81	57	75	63	67	761
喀痰	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	174	132	129	120	93	131	155	127	121	136	117	126	1561
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	144	124	130	95	124	123	92	132	129	127	146	173	1539
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	318	256	259	215	217	254	247	259	250	263	263	299	3100
合計	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	228	186	178	167	136	177	189	197	178	205	181	186	2208
	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	243	223	217	176	235	202	199	226	221	208	228	273	2651
	メチシリン未検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	471	409	395	343	371	379	388	423	399	413	409	459	4859

# 神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

## ＜報告＞ 2023(令和5)年病原体検出状況(神戸市実施分)

健康科学研究所で行った定点医療機関からの検体を中心とした病原体検出状況について報告する。

### 細菌検出状況

#### 1. 食中毒細菌

2023 年は市内の食中毒疑い事例関連の 171 検体の検査を実施し、112 株の下痢症原因菌が検出された。そのうちウエルシュ菌が 55 株と最も多く検出された(50%)。2023 年は市内で 4 例の食中毒事例が発生し、うち 2 事例が細菌性の食中毒事例であった。これらの事例に付随する検査でエンテロトキシン産生ウエルシュ菌を患者便から 26 株、食品から 1 株検出し、腸管出血性大腸菌株の MLVA 解析を 2 件実施した。上記ウエルシュ菌を病因物質とする食中毒事例の患者検便から腸管出血性大腸菌 O115 及び Og84 が検出された。この件に付随して、腸管出血性大腸菌の接触者および治癒確認検便を 346 件実施し、新たに 2 件陽性となった。また、他都市で発生した腸管出血性大腸菌 O157 食中毒事例の原因食品と考えられる食品と同一ロットの製品を検査し、腸管出血性大腸菌 O157 を検出した。

この他の散発事例として腸管出血性大腸菌の接触者および治癒確認検便を計 15 件実施したが腸管出血性大腸菌は検出されなかった。また、食中毒事例のふき取り検査でセレウス菌を 23 株検出した。

#### 2. 下痢症原因菌

定点サーベイランスで搬入された感染性胃腸炎の 1 検体から、腸管凝集性大腸菌を 1 株検出した。

#### 3. A 群溶血性レンサ球菌感染症

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎疑いの患者から採取した 5 検体から A 群溶血性レンサ球菌が検出された。T 型別の結果、T12 型(3 検体)、T1 型(1 検体)、T2 型(1 検体)であった。薬剤耐性株は検出されなかった。

#### 4. STD(性感染症)(表 1)

男性の尿道分泌物 6 検体について、淋菌の分離培養を実施した結果、6 検体とも培養陰性であった。

#### 5. その他の細菌(表 2)

##### a) レジオネラ症

喀痰 3 検体から、*Legionella pneumophila* 血清群 1(3 株)を分離した。また、患者由来菌株 *Legionella pneumophila* 血清群 1(1 株)、血清群 6(1 株)を収集した。

*Legionella pneumophila* の SBT(Sequence-based typing)による遺伝子型別解析の結果、血清群 1 の 4 株の遺伝子型はそれぞれ ST20、ST42、ST733、ST3235 と同定した。ST20 は土壌・水たまり分離株が多く含まれるグループに存在し、ST733 は国内で初めて検出された遺伝子型、ST3235 は新規遺伝子型であった。また、血清群 6 の遺伝子型は ST1992 と同定した。

##### b) 侵襲性肺炎球菌感染症

ワクチン接種済みの小児侵襲性肺炎球菌感染症 7 検体の血清型は、PCR 法と膨化法により、10A、15B、15C、22F、23B、24/(24A/24B/24F)、38 と同定した。検出された血清型はいずれも、結合型 13 価ワクチン(PCV13)には含まれない血清型であった。

また、成人の侵襲性肺炎球菌感染症 16 検体の血清型は、3(4 検体)、11A/E(2 検体)、15A(2 検体)、35B(2 検体)、6A(1 検体)、15B(1 検体)、

19A(1 検体)、23A(1 検体)、23F(1 検体)、24/(24A/24B/24F)(1 検体)と同定した。

莢膜多糖体 23 価ワクチン(PPSV23)接種済みの成人 3 名から検出された血清型 10A、11A/E、15A であった。

c) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

侵襲性インフルエンザ菌感染症 18 件について、PCR 法による莢膜型別を実施した。その結果、インフルエンザ菌の莢膜型はすべて non-typable と同定した。

d) 侵襲性髄膜炎菌感染症

髄膜炎菌 1 検体について、血清型は B 群、遺伝子型 2057 と同定した。なお、この遺伝子型は日本固有の遺伝子型であり、神戸市では 4 例目となった。薬剤感受性試験では、アンピシリン(ABPC)、セフトキシム(CTX)、メロペネム(MEPM)、リファンピシン(RFP)、シプロフロキサシン(CPFX)、レボフロキサシン(LVFX)のすべてに対して感受性であった。

e) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)感染症

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)感染症として届出された腸内細菌目細菌 14 株の検査を実施した。検出部位は、尿(7 株)、血液(4 株)、喀痰(1 株)、創部(1 株)、胆汁(1 株)であった。また、菌種は *Enterobacter cloacae* complex(6 株)、*Klebsiella aerogenes* (3 株)、*Escherichia coli*(3 株)、*Proteus mirabilis* (1 株)、*Serratia marcescens* (1 株)であった。

ディスク法によるβ-ラクタマーゼ産生のスクリーニングおよび薬剤耐性遺伝子の保有状況を調べた。その結果、クラス C β-ラクタマーゼ産生が示唆された菌種は *Klebsiella aerogenes* (3 株)、*Enterobacter cloacae* complex(5 株)、*Serratia marcescens* (1 株)であった。*Enterobacter cloacae* complex の 1 株から EBC 型 β-ラクタマーゼ、1 株から DHA 型 β-ラクタマーゼを検出した。

クラス A β-ラクタマーゼのみ検出された菌種は *Escherichia coli* (1 株)で CTX-M-1 型 β-ラクタマーゼを検出した。

2 株の *Escherichia coli* からは、カルバペネマーゼである IMP-6 β-ラクタマーゼ、*Proteus mirabilis* と *Enterobacter cloacae* complex (1 株) から NDM-1 β-ラクタマーゼを検出した。

f) バンコマイシン耐性腸球菌感染症

潰瘍部位から分離された *Enterococcus faecium* 1 検体について、耐性遺伝子 *vanA* を検出した。

g) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌 15 株収集した。内訳は A 群溶血性レンサ球菌 10 株、B 群溶血性レンサ球菌 2 株、G 群溶血性レンサ球菌 3 株である。国立感染症研究所による菌株解析の結果、10 株の A 群溶血性レンサ球菌の T 型別については、T1 型(6 株)、TB3264 型(2 株)、T 型別不能(2 株)であった。TB3264 型の 1 株はエリスロマイシンとクリンダマイシンに耐性を示した。2 株の B 群溶血性レンサ球菌の血清型は、Ia 型、Ib 型であった。3 株の G 群溶血性レンサ球菌の血清型は stC36.0 型、st840.0 型、stG2574.3 型であった。stC36.0 型株はエリスロマイシンとクリンダマイシンに耐性を示した。

h) ダニ媒介性感染症

日本紅斑熱については 12 件の検査を行い、6 例が陽性であった(昨年は 16 件中 7 件陽性)。また、SFTS について 10 件の検査依頼があり、1 件陽性であった。その他ツツガムシ病については、5 件、ライム病について 1 件の検査依頼があり全て陰性であった。

## ウイルス検出状況 (表 3、4)

2023 年は 5 月に輸入症例を発端とした麻しん検査の増加、7 月には基幹定点からの無菌性髄膜炎事例の増加があり、2022 年と比較して総検体数は多かった。しかしながら小児科/インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点からの検体数は昨年と同様少数であったため、搬入検体数は 216 件(うち陽性数 114 件)となった。

### 1) 新型コロナウイルス

新型コロナウイルス感染症については、各医療機関や民間の検査会社での検査が定着しており、抗原検査キットも普及したこと、また、5月8日に5類感染症に移行したことから、2023年に行政検査として実施した検査は3件のみであった。一方、市内の医療機関や検査会社で陽性となった検体を収集して実施したゲノムサーベイランスにおいて、4,334検体に対して変異株検出用PCRを実施した。そのうち2,188検体については全ゲノム解析を実施し、得られた情報を適宜保健所へ還元して公衆衛生対策として活用した。なお2023年12月以降は5類定点把握の感染症として、病原体サーベイランス定点からの定期回収を開始している。

### 2) エンテロ/ライノウイルス、パレコウイルス

手足口病の検体からコクサッキーウイルス A9 型(2検体)、エンテロウイルス A71 型(1検体)、ライノウイルス(1検体)およびパレコウイルス 3 型 (HPeV-3, 1検体)を検出した。ヘルパンギーナの検体からコクサッキーウイルス A2 型(4検体)、コクサッキーウイルス A10 型(3検体)、ライノウイルス(2検体)を検出した。無菌性髄膜炎は16事例32検体が搬入され、そのうち9事例20検体から HPeV-3 が検出された。HPeV-3 は生後3か月未満の乳児において髄膜炎、脳炎、敗血症等重篤な症状を引き起こすことがある。基幹定点だけでなく小児科定点からの検体についても検査を実施し、その発生動向を把握することは重要と考えられる。

### 3) アデノウイルス

咽頭結膜熱の検体からアデノウイルス(AdV)1 型(1検体)、AdV2 型(3検体)、AdV3 型(4検体)を検出した。2023年は全国的に咽頭結膜熱の報告数が多く神戸市でも同様であったものの、搬入検体は少なかった。9月には定点以外の医療機関から流行性角結膜炎の患者が増えているとの相談があり、10検体が搬入された。そのうち2検体から AdV3 型、1検体から AdV53 型、6検体から AdV54 型が検出された。

### 4) ノロウイルス

2023年の当研究所への下痢症サーベイランス検体搬入は4件あり、うち1検体からノロウイルス GII.4 を検出した。また、市内で発生した9件の食中毒疑い事例について下痢症ウイルス検査を実施したところ、5事例からノロウイルスを検出した(GI.3 が1事例、GII.2 が2事例、GII.4 が1事例、GII.17 が1事例)。

### 5) 麻しん・風しんウイルス

麻しんおよび風しんの検査を、23事例について実施した(いずれかの疑い事例の検査には両者を検出可能な Multiplex RT-PCR 法を実施)。1事例で麻しん陽性(遺伝子型 D8)、風しんは全て陰性であった。

### 6) インフルエンザウイルス

新型コロナウイルス発生以降国内で初めての流行となった2022/23シーズンは、A/H3 亜型のみが検出された。神戸市では8月下旬(第34週)には患者数が定点当たり1を超えて流行期になり、そのまま2023/24シーズンに入った。2023/24シーズン当初は A/H1pdm 亜型、その後 A/H3 亜型、続いて B/ビクトリア系統が検出され、3種類の混合流行となった。ウイルス分離可能であった A/H1pdm09 亜型については、オセルタミビル感受性の検査を実施し、全て感受性であることを確認した。B/山形系統は2020年3月以降世界的に検出されておらず、根絶したとみられている。そのため2024/25シーズンのワクチンは、A/H1pdm09 亜型、A/H3 亜型、B/ビクトリア系統の3価となる見込みである。

### 7) その他のウイルス

デング熱疑いの検体から、デングウイルス 1 型(1事例、血清、インドネシアへの渡航歴あり)、ジカウイルス(1事例、血清および尿、インドおよびタイへの渡航歴あり)を検出した。神戸市においてジカウイルスが検出された初めての事例となった。

神戸市健康科学研究所 感染症部

表1 2023年 STD(定点)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
淋菌	耐性菌 (PCG)													0
	低感受性菌 (CFIX)													0
	陽性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	検査検体数	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	6
クラミジア・トラコマチス	陽性数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	検査検体数	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3

表2 2023年 食中毒以外の細菌検査

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ダニ 媒介性	紅斑熱群リケッチア						2		2	2				6
その他臨床	レジオネラ属菌				1	1	1	1	1					5
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	3	1				1	1	2	2	2	1	14
	侵襲性肺炎球菌	2	3	1	2	7	2		1		1	3	4	26
	侵襲性インフルエンザ菌	1		1	1	3	3	1	1	3	1	1	2	18
	劇症型溶血性レンサ球菌		1	1	1	2	2	2		2	1	1	2	15

注) 数字は陽性数を示す

表3-1 2023年 ウイルス検出状況

(新型コロナウイルスは別掲)

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
コクサッキーウイルスA2型		1		1		2							4
コクサッキーウイルスA9型							1	7					8
コクサッキーウイルスA10型	1											2	3
コクサッキーウイルスB5型							1	2					3
エコーウイルス11型									3				3
エンテロウイルスA71型			1										1
ライノウイルス				1		4	1	1				2	9
パレコウイルス3型							7	12	2				21
A型インフルエンザウイルス (H1pdm09亜型)										2	2	6	10
A型インフルエンザウイルス (H3亜型)	3	6	3	1			1			1		4	19
B型インフルエンザウイルス (ビクトリア系統)												2	2
パラインフルエンザウイルス3型					1								1
パラインフルエンザウイルス4型						1							1
麻疹ウイルス					1								1
ノロウイルスG11		1											1
アデノウイルス1型		1											1
アデノウイルス2型			1				1					1	3
アデノウイルス3型							2		2			3	7
アデノウイルス53型									1				1
アデノウイルス54型									6				6
単純ヘルペスウイルス1型					1								1
ヒトヘルペスウイルス6型				3									3
EBウイルス			1										1
A型肝炎ウイルス						1							1
デングウイルス1型			1										1
ジカウイルス										2			2
SFTS				1									1
陽性検体数	4	9	7	6	3	8	14	22	14	5	2	20	115
検体数	10	12	13	9	27	47	19	31	18	7	2	21	226

表3-2 2023年 新型コロナウイルス検出状況

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
SARS-CoV-2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
検体数	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3

表4 2023年 疾患別ウイルス検出件数

(集団嘔吐下痢症および、インフルエンザ、新型コロナウイルスをのぞく)

診断名	検出ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
咽頭結膜熱	アデノウイルス1型		1											1
	アデノウイルス2型		1						1				1	3
	アデノウイルス3型								1				3	4
感染性胃腸炎	ノロウイルスG11		1											1
手足口病	コクサッキーウイルスA9型							1	1					2
	エンテロウイルスA71型			1										1
	ライノウイルス							1						1
	パレコウイルス3型							1						1
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルスA2型		1		1		2							4
	コクサッキーウイルスA10型	1											2	3
	ライノウイルス						1		1					2
流行性角結膜炎	アデノウイルス3型									2				2
	アデノウイルス53型									1				1
	アデノウイルス54型									6				6
無菌性髄膜炎	コクサッキーウイルスA9型								6					6
	コクサッキーウイルスB5型							1	2					3
	エコーウイルス11型									3				3
	パレコウイルス3型							6	12	2				20
	ヒトヘルペスウイルス6型				3									3
A型肝炎	A型肝炎ウイルス						1							1
デング熱	デングウイルス1型			1										1
	ジカウイルス										2			2
急性脳炎	EBウイルス			1										1
	ライノウイルス				1									1
	A型インフルエンザウイルス (H3亜型)							1						1
麻疹疑い	麻疹ウイルス					1								1
	単純ヘルペスウイルス1型					1								1
エンテロウイルス感染症	パラインフルエンザウイルス3型					1								1
呼吸器疾患	パラインフルエンザウイルス4型						1							1
	ライノウイルス						3							3
上気道炎	ライノウイルス												2	2
合計検出数		1	4	3	5	3	8	11	25	14	2	0	8	84

# 神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

## 結核

結核を含む感染症は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、医療機関からの発生届の情報が国のサーベイランスシステムに登録され、それにより、日本の感染症の発生動向調査が実施されている。令和6年8月、2023年の「結核登録者情報調査年報」が厚生労働省から発表され、全国の結核罹患率は8.1と低蔓延状態を維持しているがわずかな低下となった。

([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095\\_00011.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00011.html))

神戸市の2023年の結核登録者情報調査年報について、全国と比較して説明する。

### 1. 結核罹患率(人口10万人に対する新登録結核患者数)

2023年の結核罹患率は神戸市では11.3と2022年より増加し、再び低蔓延地域を逸脱した。市内で差はあり、最も罹患率が高いのは長田区の21.5で、次いで兵庫区19.1で、北区8.3、垂水区8.2、灘区5.9の3区は10未満であった。中央区は2022年には7.4と著明に低下したが、2023年は12.1と増加し、3区(中央・兵庫・長田)の罹患率が高い傾向は続いている。(表1、図1)2023年は発熱時の喀痰検査や胸部X線検査がコロナ禍の真最中よりは実施されるようになったと考えられる。今しばらくは一時的には患者数が増加しても、検査を勧めて患者の早期受診・早期発見に努め、感染の連鎖を断ち切りたい。

### 2. 新登録結核患者数(1年間に患者として届出られ登録された患者数、再治療を含む)

新登録結核患者数は全国では10,096人で前年より、139人(1.4%)減少している。神戸市では170人で、前年より、22人(約13%)増加した。予想通り、コロナ禍で減少していた外国生まれの人(特に日本語教育機関の留学生)が増加し、2021年2022年は各12人であった外国生まれの結核患者が2023年には25人に増加した。高齢者については胸部X線検査や喀痰検査の実施数が復活してきていると考えられる。外国生まれ結核患者数はすでに2022年の数を超えているため、同じレベルの減少率は望めず、再増加に注意が必要と考えられる。(表2、図1)

### 3. 喀痰塗抹陽性肺結核患者数及び罹患率(肺結核患者のうち、喀痰をガラス板に塗り顕微鏡でみて菌がみつかった患者(菌量が多い、他人への感染性が高い)数、及びその人口10万人に対する罹患率)

喀痰塗抹陽性肺結核患者数は全国で3,524人、罹患率2.8で、神戸市では68人、罹患率は4.5である。2022年に比し26人増加し、罹患率も2.8から4.5に増加、新登録患者に占める割合も40.0%と増加し2021年とはほぼ同等である。感染拡大防止のためには、喀痰塗抹陽性になる前に患者を発見し治療を開始することが重要である。(図2)

### 4. 結核菌の感受性検査結果

結核菌は、薬剤耐性が誘導されやすく、3~4剤の多剤併用療法が標準治療である。主要な薬剤のINH,RFPの2剤が耐性であれば多剤耐性結核(MDR)である。新登録肺結核培養陽性患者は全国で5,515人、うち、

薬剤感受性結果が判明しているのは 4,526 人、MDR は 35 人(0.6%)であった。神戸市では培養陽性患者 81 人、1 人のみ MDR と判明した。過去の治療歴は明らかでなく、高齢者で診断後 1 か月以内に他界されたが、家族等周囲への感染拡大は否定的であった。

5. 年齢階級別新登録結核患者数(図3)

新登録結核患者を年齢階級別にみると、70 歳以上は全国では 6,272 人で 62.1%、神戸市では 114 人で 77%をしめる。80 歳以上は全国では前年より 490 人減少して 4,583 人(44.8%)、神戸市では 28 人減少して 79 人(53.4%)であった。70 歳以上の結核患者は合併症や年齢による免疫力の低下により発病していると考えられるが、何となく元気がない、食欲が低下してきたなどの症状が結核のはじまりのことがある。

6. 小児結核(0~14 歳の新登録結核患者)

小児結核患者数は全国 37 人、前年から 2 人の増加となったが、粟粒結核 2 人、結核性髄膜炎 3 人、兵庫県内でも 1 人あった。神戸市の小児結核は 2017 年に 3 人、2018 年・2019 年には 0 人、2020 年に 2 人、2021 年に 1 人で 2022 年・2023 年は 0 人であった。小児の結核を減らすためには大人の結核を早期発見することが重要である。

7. 外国生まれ新登録結核患者数

全国では前年から 405 人増加し、1,619 人となった。神戸市でも 25 人増加し、全新登録結核患者の 14.7%に上昇した。20 代の新登録結核患者 17 人中 16 人(94.1%)が外国生まれであった。近年神戸市内での住民登録が急増しているネパール・ミャンマーは結核の罹患率が高い国で、語学学校などの留学生の中から、2023 年 12 人発病した。、入国 2 か月以内の健診で患者が発見されている。健診を受ける習慣がないため、継続した健診の受診勧奨が必要で、有症状時にもなかなか受診につながらないため、言語の壁を越えた知識の普及が必要である。

8. 潜在性結核感染症(結核菌に感染しているが、症状・所見はなく発病していない状態 : Latent Tuberculosis Infection

LTBI) 治療が必要な例のみ届出る。全国で 5,033 人、前年より 8 人増加、神戸市では 48 人で、前年より 12 人減少した。生物学的製剤などを使うため治療が必要となる人が多数で、年齢も合併症の多い 60 歳以上が 33 人で 68.8%を占めている。(図 4)2021 年 10 月 18 日の医療基準の改定により、INH、RFP2 剤で 3~4 か月というレジメが追加承認された。RFP は薬剤の相互作用が多いため、他の薬剤を服用していない、若年者の LTBI 治療に使用され、治療完了に導いている。

表1 罹患率(人口 10 万人あたり)

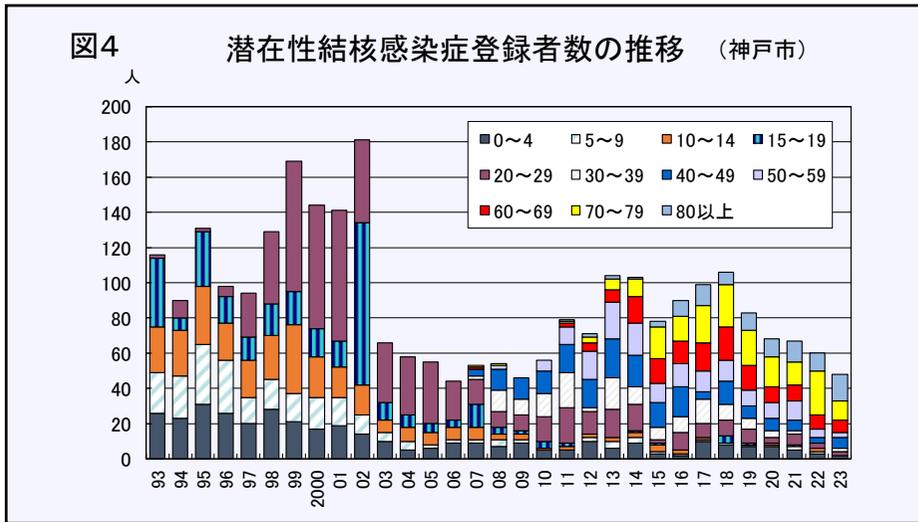
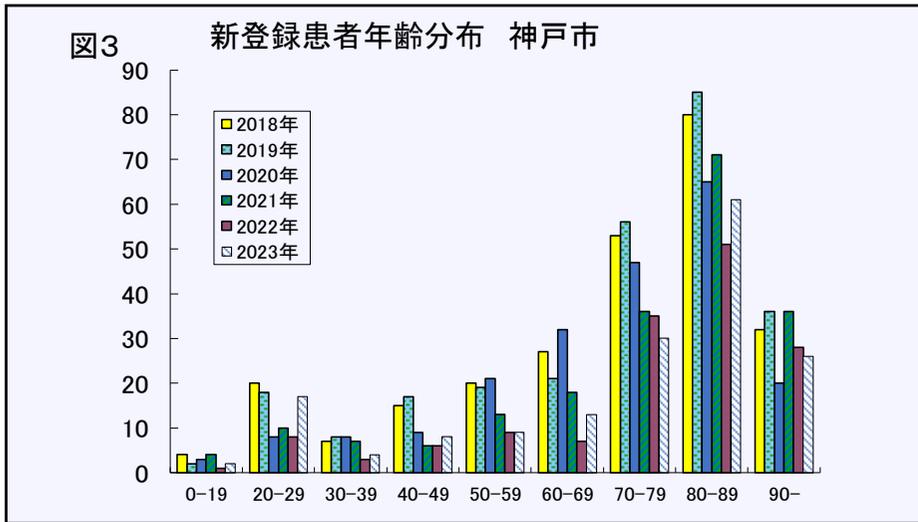
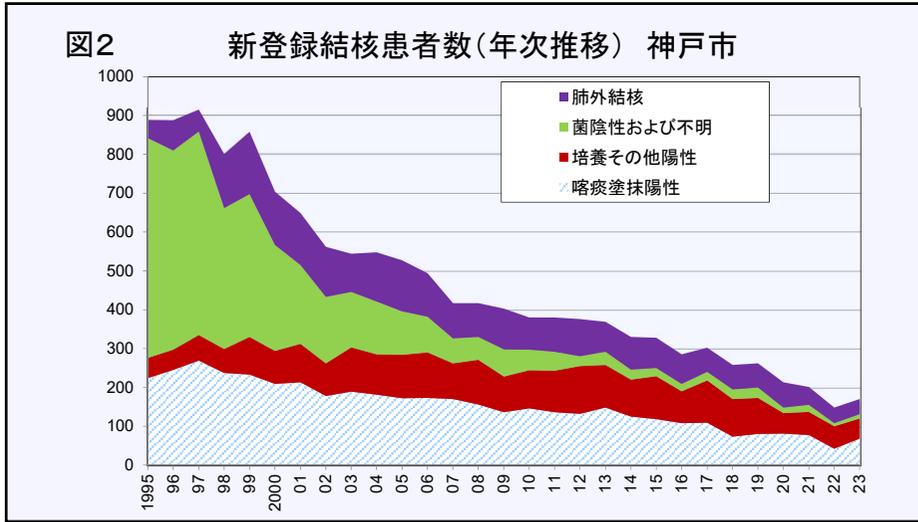
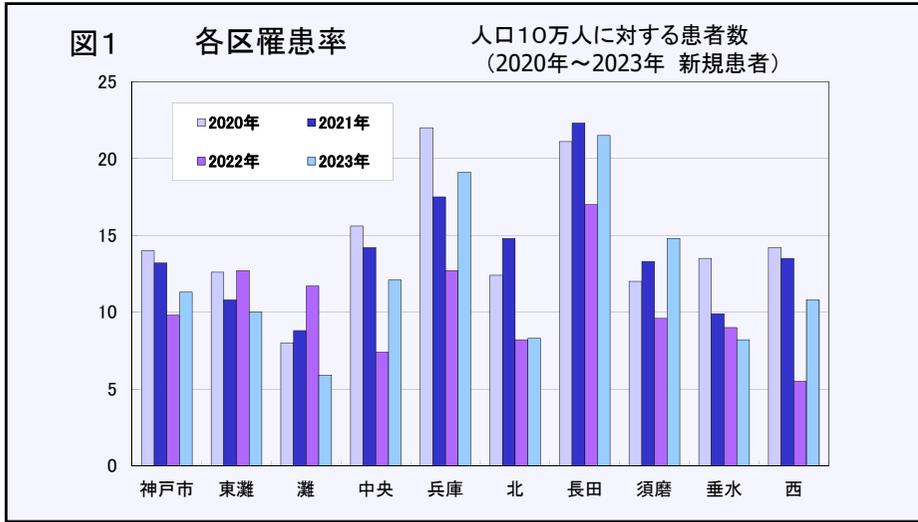
年	2021	2022	2023
神戸市	13.2	9.8	11.3
東灘	10.8	12.7	10.0
灘	8.8	11.7	5.9
中央	14.2	7.4	12.1
兵庫	17.5	12.7	19.1
北	14.8	8.2	8.3
長田	22.3	17.0	21.5
須磨	13.3	9.6	14.8
垂水	9.9	9.0	8.2
西	13.5	5.5	10.8

2020年は国勢調査の人口集計値で計算

2021・2022 年は統計こうべの 10 月推定人口で計算

表 2 新登録患者数(人)

年	2021	2022	2023
神戸市	208	148	170
東灘	23	27	21
灘	12	16	8
中央	21	11	18
兵庫	19	14	21
北	31	17	17
長田	21	16	20
須磨	21	15	23
垂水	21	19	17
西	32	13	25



感染症発生動向調査の対象となる感染症一覧

(令和6年4月1日現在)

一類感染症		五類感染症・全数把握	
1	エボラ出血熱	1	アメーバー赤痢
2	クリミア・コンゴ出血熱	2	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)
3	痘そう	3	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
4	南米出血熱	4	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)
5	ペスト	5	急性脳炎(四類感染症における脳炎を除く)
6	マールブルグ病	6	クリプトスポリジウム症
7	ラッサ熱	7	クロイツフェルト・ヤコブ病
二類感染症		8	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
1	急性灰白髄炎	9	後天性免疫不全症候群(無症状病原体保有者を含む)
2	結核	10	ジアルジア症
3	ジフテリア	11	侵襲性インフルエンザ菌感染症
4	重症急性呼吸器症候群(SARS コロナウイルスに限る)	12	侵襲性髄膜炎菌感染症
5	中東呼吸器症候群(MERS コロナウイルスに限る)	13	侵襲性肺炎球菌感染症
6	鳥インフルエンザ(H5N1)	14	水痘(入院例に限る)
7	鳥インフルエンザ(H7N9)	15	先天性風しん症候群
三類感染症		16	梅毒(無症状病原体保有者を含む)
1	コレラ	17	播種性クリプトコックス症
2	細菌性赤痢	18	破傷風
3	腸管出血性大腸菌感染症	19	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
4	腸チフス	20	バンコマイシン耐性腸球菌感染症
5	パラチフス	21	百日咳
四類感染症		22	風しん
1	E型肝炎	23	麻しん
2	ウエストナイル熱	24	薬剤耐性アシネトバクター感染症
3	A型肝炎	五類感染症・小児科定点	
4	エキノコックス症	25	RSウイルス感染症
5	エムポックス	26	咽頭結膜熱
6	黄熱	27	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
7	オウム病	28	感染性胃腸炎
8	オムスク出血熱	29	水痘
9	回帰熱	30	手足口病
10	キャサナル森林病	31	伝染性紅斑
11	Q熱	32	突発性発しん
12	狂犬病	33	ヘルパンギーナ
13	コクシジオイデス症	34	流行性耳下腺炎
14	ジカウイルス感染症	五類感染症・インフルエンザ定点	
15	重症熱性血小板減少症候群(SFTSウイルスに限る)	35	インフルエンザ(鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症を除く)
16	腎症候性出血熱	五類感染症・眼科定点	
17	西部ウマ脳炎	36	急性出血性結膜炎
18	ダニ媒介脳炎	37	流行性角結膜炎
19	炭疽	五類感染症・性感染症定点	
20	チクングニア熱	38	性器クラミジア感染症
21	つつが虫病	39	性器ヘルペスウイルス感染症
22	デング熱	40	尖圭コンジローマ
23	東部ウマ脳炎	41	淋菌感染症
五類感染症・基幹病院定点			
週単位		月単位	
35	インフルエンザ(入院患者のみ)	45	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
42	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスによるものに限る)	48	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
43	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	49	薬剤耐性緑膿菌感染症
44	細菌性髄膜炎	法14条第1項に規定する厚生労働省令に定める疑似症	
46	マイコプラズマ肺炎	1	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものの。
47	無菌性髄膜炎		
新型インフルエンザ等感染症			
1	新型インフルエンザ		
2	再興型インフルエンザ		
3	新型コロナウイルス感染症		
4	再興型新型コロナウイルス感染症		

## 報告週対応表(2024年/令和6年)

月・週		期 間 (月曜) ~ (日曜)	月・週		期 間 (月曜) ~ (日曜)
1月	第 1 週	1月1日 ~ 1月7日	7月	第 27 週	7月1日 ~ 7月7日
	第 2 週	1月8日 ~ 1月14日		第 28 週	7月8日 ~ 7月14日
	第 3 週	1月15日 ~ 1月21日		第 29 週	7月15日 ~ 7月21日
	第 4 週	1月22日 ~ 1月28日		第 30 週	7月22日 ~ 7月28日
2月	第 5 週	1月29日 ~ 2月4日	8月	第 31 週	7月29日 ~ 8月4日
	第 6 週	2月5日 ~ 2月11日		第 32 週	8月5日 ~ 8月11日
	第 7 週	2月12日 ~ 2月18日		第 33 週	8月12日 ~ 8月18日
	第 8 週	2月19日 ~ 2月25日		第 34 週	8月19日 ~ 8月25日
第 9 週	2月26日 ~ 3月3日	第 35 週		8月26日 ~ 9月1日	
3月	第 10 週	3月4日 ~ 3月10日	9月	第 36 週	9月2日 ~ 9月8日
	第 11 週	3月11日 ~ 3月17日		第 37 週	9月9日 ~ 9月15日
	第 12 週	3月18日 ~ 3月24日		第 38 週	9月16日 ~ 9月22日
	第 13 週	3月25日 ~ 3月31日		第 39 週	9月23日 ~ 9月29日
	第 14 週	4月1日 ~ 4月7日		10月	第 40 週
第 15 週	4月8日 ~ 4月14日	第 41 週	10月7日 ~ 10月13日		
第 16 週	4月15日 ~ 4月21日	第 42 週	10月14日 ~ 10月20日		
第 17 週	4月22日 ~ 4月28日	第 43 週	10月21日 ~ 10月27日		
第 18 週	4月29日 ~ 5月5日	11月	第 44 週		10月28日 ~ 11月3日
第 19 週	5月6日 ~ 5月12日		第 45 週	11月4日 ~ 11月10日	
第 20 週	5月13日 ~ 5月19日		第 46 週	11月11日 ~ 11月17日	
第 21 週	5月20日 ~ 5月26日		第 47 週	11月18日 ~ 11月24日	
第 22 週	5月27日 ~ 6月2日		第 48 週	11月25日 ~ 12月1日	
6月	第 23 週	6月3日 ~ 6月9日	12月	第 49 週	12月2日 ~ 12月8日
	第 24 週	6月10日 ~ 6月16日		第 50 週	12月9日 ~ 12月15日
	第 25 週	6月17日 ~ 6月23日		第 51 週	12月16日 ~ 12月22日
	第 26 週	6月24日 ~ 6月30日		第 52 週	12月23日 ~ 12月29日